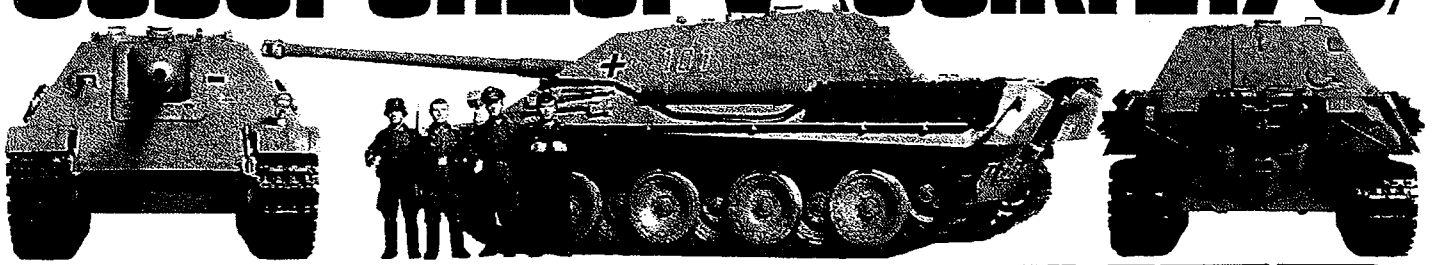
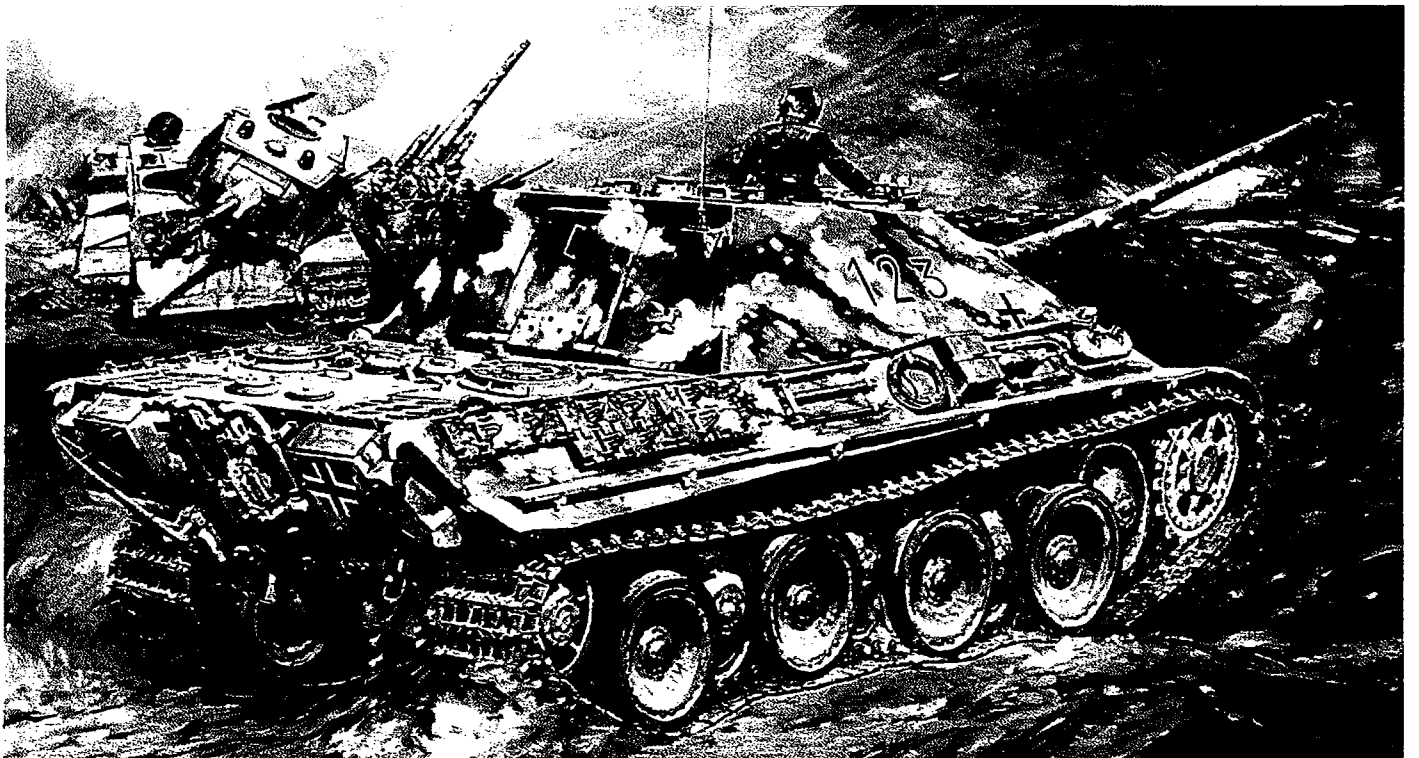


Ja9dPanzer V (sd.kfz173)



JAGDPANTHER

1/25 IDENTICAL SCALE SERIES NO.13 ★REMOTE CONTROL TANK ★IT'S MOTORIZED!
★REALISTIC COMMANDER FIGURE



全長.....24.95m
全幅.....3.70m
全高.....2.72m
全重.....28.33t
乗員.....1名
エンジン.....ダイズル 1300cc・水冷6気筒直列4気筒
ホブスターク.....130mm口径
砲弾重量.....13.00kg
砲弾長.....1.81m
最高出力.....700PS
最高回転数.....3200rpm
変速機.....AK7・4速 駆進7段・後退1段

最高速度.....路上 46km/h 路外 24km/h
航続距離.....路上 210km 路外 140km
登坂力.....35度
渡渉深度.....1.55m

武 装.....Pak43/3・71口径88mm砲・1
MG34・7.92mm機銃×1

装甲 (厚さ/傾斜)
車体前面.....80mm/35°
車体側面下部.....40mm/90°
車体後面.....40mm/60°
戦闘室前面.....80mm/35°
戦闘室側面.....50mm/60°
戦闘室後面.....40mm/60°
戦闘室上面.....17mm/5°

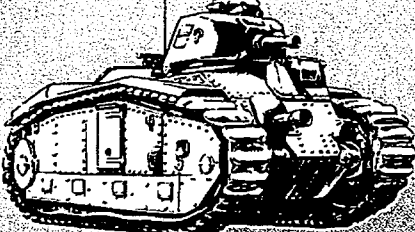
GERMAN Ja9dPanzer V JAGDPANTHER(sd.kfz173)

〈ヤークト・パンサーの誕生〉

ロンメルは正式にはヤークト・パンサーと呼ばれ、ドイツ軍最良の対戦車兵器として連合軍から恐れられた駆逐戦車であった。

1918年、第1次大戦を敗戦で迎えたドイツは1919年6月のベルサイユ条約により、兵士の数を10万名までとする制限をはじめ、多くの軍備上の制限を受けた。このため、ドイツ軍は、イギリス、フランスなどの列強に対して対決するためには、兵士の質を向上させるか兵器、装備を最良にする以外にないと早くから気づいていた。特に地上兵力において、兵員の数が制限されている以上、装備を機械化するほかに道はなかった。1933年、ヒトラーが政権を握り、新国軍としての国防軍が誕生するや地上兵力の機械化は急速に進められることになった。その手始めとなったのが補給部隊と砲兵の機械化であった。それは新たに編成中の戦車師団に砲兵部隊が必要となったからであったが、当時としては自走砲の編成は考えずにハーフトラックによる野砲の索引としており、馬が自動車に変わったにすぎなかった。ドイツ国防軍が自走砲による砲兵の開発を始めたのは、III号突撃砲からであった。

B1戦車

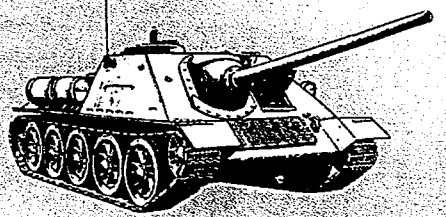


1939年9月、ポーランドに侵入したドイツ軍は電撃作戦の名のもとに華々しい勝利を得た。この戦いにおいて、戦車の活躍は目ざましいものであったが、戦車の車体に野砲や対戦車砲を載せた自走砲と名のつくものは一台も登場していなかった。このポーランド戦でドイツ軍は攻撃兵器としての戦車のほかに歩兵支援用の機動力ある砲の必要を痛感した。戦車と歩兵の間に残された敵を攻撃するためのものであった。この結果、1940年5月から開始されたフランス戦にはI号戦車に150mm砲を載せた歩兵支援戦車と75mm突撃砲が活躍することになる。しかし、フランス戦はポーランド戦のように容易なものではなかった。ドイツ軍対戦車砲部隊の装備していた37mm対戦車砲はフランスの重戦車に対してまったく無力であることが判明したのである。当時、世界第1の陸軍国であったフランスは、ルノーR35軽戦車、ソーマアS35中戦車、そしてB1重戦車を装備していた。特にB1戦車の装甲は強力で、ドイツの37mm対戦車砲はまったく歯がたらず、最新のVI号戦車の75mm砲でさえ、前面装甲を破ることはできなかった。このような状況で、フランダースの野で決したフランス、ドイツ両軍の勝敗を決したのは88mm高射砲の水平射撃と、コンカースJ U87スツーカーの急降下爆撃であった。

1941年6月、ドイツ軍はソビエトに侵入、ドイツ戦車部隊はソビエトの誇るT-34やKV-1などの優秀な戦車と戦うことになった。夏から秋にかけてドイツ軍は、巧みな戦車用法によって勝利と共に進撃を続けた。しかし、個々の戦車についてみるならば、ドイツ戦車部隊の報告は、T-34とKV-1の頑強を抵抗と驚くべき強さを示すものばかりであった。性能的に劣る戦車で戦うドイツ軍が、その困難を克服できたのは、戦車用法の上での一日の長と、フランス戦で活躍したスツーカー、それに88mm高射砲の威力によるところが多かったの

である。1941年9月、ドイツ軍はソ連戦車との差を埋めるためにIV号戦車とIII号突撃砲の火力増強を決定、また、これと平行して長砲身75mm砲搭載戦車および対戦車戦に絶大な威力を発揮した88mm砲を搭載する戦車の開発を決めた。パンサーとタイガーである。この決定は、ドイツ軍が対ソ戦で次のことを身を持って学んだことを示している。まず兵器としては75mm及び88mm砲で初速は39型徹甲弾を用いて700m/秒以上でないソ連戦車に有効でないこと。第2に道路網の整備されていぬ広いソビエト領内において、行動力を得るためには少なくとも半装軌(ハーフトラック)、できれば全装軌(キャタピラー)式にすべきであること。この2つの条件を満たすことが最低、必要なことであった。そして、この条件は後のドイツ戦車、自走砲にすべてあてはめられた。中でも88mm砲の威力は全ドイツ軍に強く印象づけられていたためあって、対戦車兵器の中心に常に花々しく登場している。この独ソ戦の戦訓を取り入れ、最初に開発された自走砲が1943年に入って生産されたナスホルンである。この自走砲は、III号、IV号戦車の長所だけを取り出して作られた車体にオープンタイプの砲塔を架装し、1943年に作られたばかりの最新式88mm砲(Pak 43/1)を搭載したものであった。同じ1943年に完成した88mm砲搭載の自走砲にエレファントがある。ボルシェ博士設計のガソリンエンジンとジェネレーターを組み合わせた電気動力の斬新な重戦車は特に駆逐戦車(ヤークトパンサー)と呼ばれた。これらの新戦車は1943年7月のクルスク戦におけるドイツ戦車部隊の中核となる。クルスクの戦いは結局、ドイツ軍の敗退のうちに終わったが、ここに新登場した戦車は、それぞれ問題を含んでいた。パンサーはここでは除外するとして、ナスホルンは71口径の88mm対戦車砲搭載には車体が小さくどうしても多少の無理があった。また車高が高く、侵襲に際して敵の目標となりやすく、接近戦には装甲が薄すぎて対戦車用兵器としては用法上の制限が多かった。もう一つ、空からの攻撃に対して弱いことも、戦争の後半問題となってくる。一方、エレファントは結果的には悪い面だけをさらけ出したことになった。重量(71.7t)がありすぎて機動力を欠き、特殊なメカニズムが兵士達に嫌われたのである。また、攻撃型でないこの戦車に攻撃の先鋒をつとめさせた戦術上の誤りも重って不運であった。しかし両戦車の搭載した88mm砲の威力は、やはり抜群であった。このクルスク

SU-100



戦の影響を最も強く受けたのが駆逐戦車であった。そしてクルスクの敗北以来、ドイツ軍の戦術が防禦戦型になるにつれ、対戦車用兵器としての駆逐戦車は、いっそう急速な発達を促されることになった。こうして、1944年中期から終戦まで、ドイツ戦車部隊および対戦車砲部隊の中核となったヤークト・パンサー(パンサー駆逐戦車)が誕生することになったのである。

パンサーの駆逐戦車への改造は、M I A G社(アミー・ヴェルク・ブラウニングアイヒ社)が担当し、1943年の初めより開始された。原型は同年9月には完成し、10月20日アリス戦車演習場においてヒトラーの検閲を受けた。形態は強力な71口径88mm対戦車砲(Pak 43/3)を、III号、IV号突撃砲の無砲塔型を踏襲してより進歩したガーゼット型砲塔の固定砲座に搭載したものである。近代的なパンサー戦車と長砲身の88mm砲をマッチさせた優美とも首える形態となり、ドイツ対戦車兵器の総決算と云えるすぐれたものであった。当時、ソビエトが量産し始めたばかりのSU-85自走砲と形態的にも大変よく似ていることを考えると、対戦車兵器としてのヤークト・パンサーの形態は、第2次大戦の総決算と言っても間違いでないであろう。

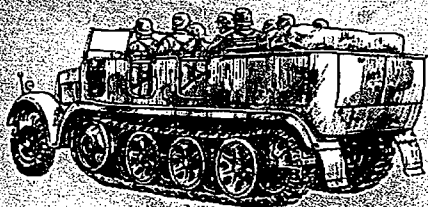
前面装甲板は80mmで55度の傾斜が与えられ、中央には「ソウ・コップ(豚の鼻)型」の防指つき88mm砲が搭載されている。側面の装甲は60mmで傾斜は30度、車内は外観よりも広くドイツ戦車の特長である居住性の良さは、このヤークト・パンサーでも十分に認められる。88mm砲は車体の中心にあり、限定されているが左右11度までの旋回が可能であった。この71口径長砲身88mm対戦車砲43/3型は、タイガーII型に搭載されたものと同一でドイツ軍最良の88mm砲であった。39型徹甲弾を使用して初速1000m/秒、1000mの距離で60度傾斜した165mmの鋼板を貫通する性能を持っていた。携行弾数は60発であった。前方固定銃は車体右側のポールマウント型銃架にMG-34を装



備する。車体前面の左側には操縦士用の視察窓がおかれる。この他に視察用の装置としてペリスコープ、レンジファインダーを装備する。乗員は車長、操縦士、通信士兼機銃手、砲手および装填手の5名である。ヤークト・パンサーは当初、「パンツァー・ヤーゲル・パンサー」・88mm Pak43/3 (SdKfz 173) と呼ばれたが、1944年2月、量産の開始とともにヒトラーの命令により、ヤークト・パンサーと正式に呼ばれるようになった。量産にあたってはM I A G社、MNH社の2社で車体はパンサーG型のものが転用された。量産型のパンサーG型と車体走行部が異なるのはギヤーボックスだけで、ヤークト・パンサーは新型のギヤー比の少ないAK-7-400型を装備した。ヤークト・パンサーには前期量産型と後期量産型の2つに分けることができるが、外見上88mm砲身部や、車体前面のカラーに多少の違いが見られるのみで性能は同じである。実戦への参加は、北部戦線では1944年7月末ドイツ軍SS戦車部隊配属の一部が英軍と対決したのが最初である。また東部戦線では、これより少し早く出撃していたが、いずれにせよ、その登場は遅きに失した感がある。総生産数は、M I A G社、MNH社を合わせて1945年3月までに382輛が造られた。

〈ドイツ独立対戦車砲大隊とヤークト・パンサー〉

1939年10月、ポーランドを相手にした電撃戦が終了した頃、ドイツ国防軍首脳は、改めて機械化された部隊の威力に驚くと共に戦車の活躍に目を見張った。そして大なる敵、フランスとの戦いの戦術に秘策を練った。第1次大戦で一方の雄となったフランスは名だたる陸軍国であり、この当時、イギリスを海軍の支配者とするフランスはヨーロッパの陸軍の支配者であった。陸軍の機械化についても各国の水準を抜いており、優秀な戦車を多数、第一線に配備していた。1940年初頭、ポーランドにハープトラック

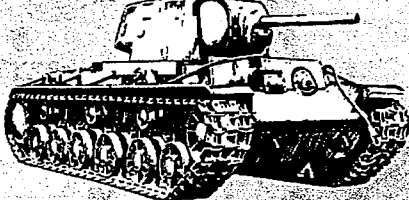


下戦における自軍の戦車によってその威力に開眼したドイツ陸軍総司令部 (OKH) は、フランス戦車に対する秘策として新たに各軍団直属の対戦車砲大隊を編成、これを自由に激戦地区に投入できるようにした。これが独立対戦車砲大隊である。15ヶ大隊が編成されたこの独立対戦車砲大隊の編制は、大隊本部中隊および3個中隊の対戦車砲中隊から編成されていた。また、3ヶ大隊についてはそれぞれ1ヶ中隊に88mm高射砲を配備させ、空からの攻撃とフランス重戦車との対決に備えていた。これが水平射撃も可能な88mm高射砲 (Flak36) を対戦車砲のピンチヒッターとして使用した最初である。当時、この代位の88mm高射砲が後に対戦車砲の主役となることを誰が想像したであろうか。ところで他の12ヶ大隊はどうだったろうか。4ヶ大隊は、ドイツ軍初の対戦車自走砲と言え、I号戦車B型の車体にナチコ製47mm対戦車砲を搭載した車輛で編成されていた。そして残りの8ヶ大隊はすべて47口径の37mm対戦車砲35/36型で編成されたが、この部隊はフランス戦で苦戦を強いられることになる。1940年5月から始まったフランス戦の結果は、対戦車砲部隊にも種

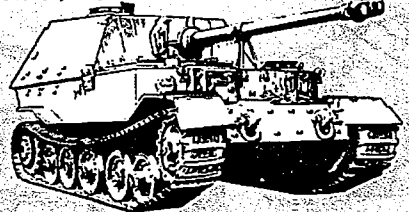
々の問題を残した。部隊の主力であった37mm対戦車砲は、中型以上のフランス戦車には有効でなく、大型戦車に対してはまったく効果が期待できなかった。この苦境を救ったのが88mm砲であった。

ドイツ軍はただちにこの苦い経験を生かし、対戦車火器の性能向上をはかった。まず37mm対戦車砲に代えて1940年から、60口径50mmの対戦車砲を大幅に取り入れることになった。独立対戦車砲大隊の当時の編成では、ハープトラックに牽引させた対戦車砲中隊にほとんど切りかえ、一部は更に強力な75mm対戦車砲も装備した。ただ不思議なことにピンチヒッターとして活躍した88mm砲は各部隊から引き

KV-1

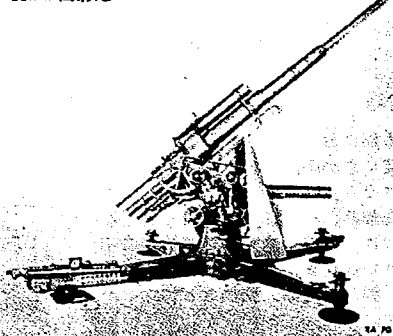


エレファント



上げられ、空軍直属の対空部隊に統合された。1941年3月、ロンメル将軍に率いられたドイツ対戦車部隊が北アフリカのトリポリに上陸した時の状況は、フランス戦当時の47mm自走対戦車砲、37mm対戦車砲、それに50mm対戦車砲と各師団、各部隊は装備が不統一のままに戦線に突入せねばならなかった。この状態は他の部隊でも同様で6月22日まで続き、独ソ戦においても当初、不十分な対戦車火器の装備のままに戦われることになった。ここで又ドイツ対戦車部隊は強敵を相手に苦しい戦いを繰り返すことになる。ソビエトのKV-1、T-34の出現は、ドイツ対戦車砲部隊の装備をいっしょに時代遅れのものにしたのである。対等に対決できる兵器は、フランス戦の終了後、編制からははずされた88mm高射砲以外になかった。1942年春、ドイツ国防軍は、東部戦線における冬の苦境を切り抜け、新な意気込みで戦線をたてなおしていた。対戦車砲大隊も大幅な増強をはかった。それまでの牽引を主力にした方式を自走砲中心に改めたのである。1例をあげれば本部中隊および1ヶ中隊に長砲身45口径75mm砲搭載の突撃砲、又はII号戦車を自走砲化したアダーゲンIIを配備した。次の1ヶ中隊は牽引による75mm対戦車砲40型を装備、また対空火器を復活し、1ヶ中隊の20mm自走対空砲も加えられた。スターリンググラードの激戦においては、こうした独立対戦車砲大隊がソ連戦車部隊と戦ったのである。当時の東部戦線の報告には88mm高射砲の地上感での活躍が目立ち、ドイツ将兵にとってこの万能砲は類みの網であった。1943年、待望の88mm対戦車砲 (Pak43/1) が完成し、戦線に送られた。しかし、この長砲身71口径の強力な砲は重量がありすぎ、牽引にも、設置にも兵士たちに相当な腕力と能力を要求した。悪路の続く東部戦線では、牽引は限界に近かった。1943年7月のツィクデル作戦には88mm対戦車砲を搭載した2つの自走砲が登場した。

88mm高射砲



1つはエレファントで第9軍麾下の第41戦車軍団の直属部隊として第653、654の重対戦車砲大隊が編成された。また北上してクルスクを攻撃したケンプフ軍の第42軍団にはナスホルンで編成された軍団直属の第560重対戦車砲大隊が配属された。しかし、この2つの重対戦車自走砲も、あまりかんばしい活躍は見せなかった。これら1943年までの自走式重対戦車火器の失敗の原因は単純であった。対戦車火器を主体にし、それを安易に模擬戦車の車体に搭載したためである。砲と車体のバランスは無視され、当然ながら機動性にふれる行動は望むべくもなかった。しかし1944年後半、88mm砲に理想的な車体を持った自走砲が完成した。ヤークト・パンサーである。ヤークト・パンサーは対戦車火器としても防壁型戦車としてもドイツ軍兵器の傑作であった。ヤークト・パンサーが登場した1944年後半から終戦までの独立対戦車砲大隊の標準的な編制は、本部中隊および第1中隊でヤークト・パンサー14台を装備、第2中隊は38トン戦車の車体を利用したヘッツナー駆逐戦車を17台、最後の中隊が牽引式の88mm又は75mm対戦車砲を装備して編成されている。資料によるとヤークト・パンサーのみで大隊を編成した記録があるが、実際に全部がそろったかは疑問である。例えば1944年夏、それまでナスホルンで戦ってきた第519重対戦車砲大隊はヤークト・パンサーで再編成され、第1299大隊と名を改めたが、ヤークト・パンサー1個中隊だけの編制で直ちに前線に投入されている。この頃は兵力を実際以上に見せかけるため、中隊程度の未完成の大隊でも大隊と呼んでいたとも考えられる。



ヤークト・パンサーの登場した時期は、圧倒的な連合軍兵力の前にドイツ軍は敗退を続けていた。戦車兵たちは皆若く、戦線の経験も少なかった。だが、この悪条件の中で独立対戦車砲大隊のヤークト・パンサーは善戦した。中でも1ヶ小隊程度に分割され、歩兵部隊の支援にあたってヤークト・パンサーは、勇敢に最も最後まで戦場によみ止まって歩兵たちを守った。ヤークト・パンサーは、ドイツ軍歩兵の救いの神だったのである。



作る前にお読みください。

〈作る前にお読み下さい〉

★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始めた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されています。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★このキットにはRE-280モーター2個と単2乾電池4本が必要です。

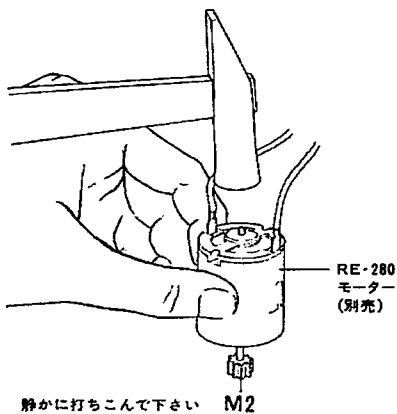
★組立図中の齊く印刷されている所は、接着部分です。

★模型には必ず塗装をしましょう。塗装は、モデルにリアルな実感を与えます。君だけのモデルを作り上げるのも塗装の楽しみです。又デカールをはがしにくくするのに役に立ちます

★タミヤからは、手軽に使えるスプレー式のタミヤカラーと兼塗り用エナメル塗料タミヤカラーが発売されています。色の正確なタミヤの塗料ですばらしい傑作に仕上げてください。

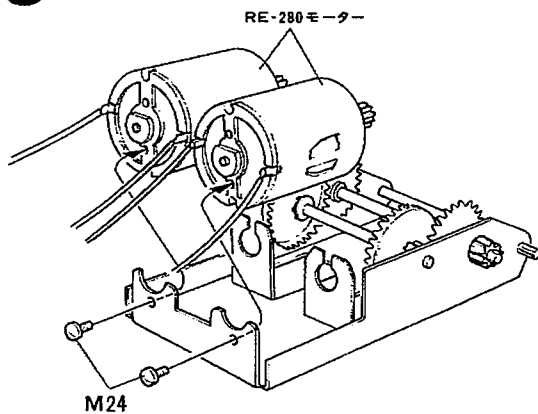
★このキットには次の色の塗料が使われます。

1 モーターへピニオンギヤの打ち込み

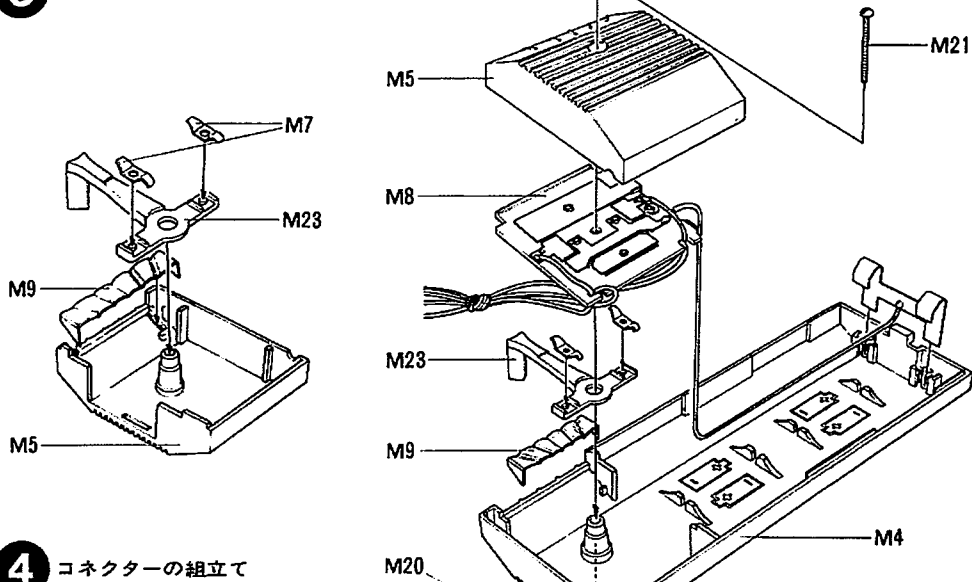


静かに打ちこんで下さい M2

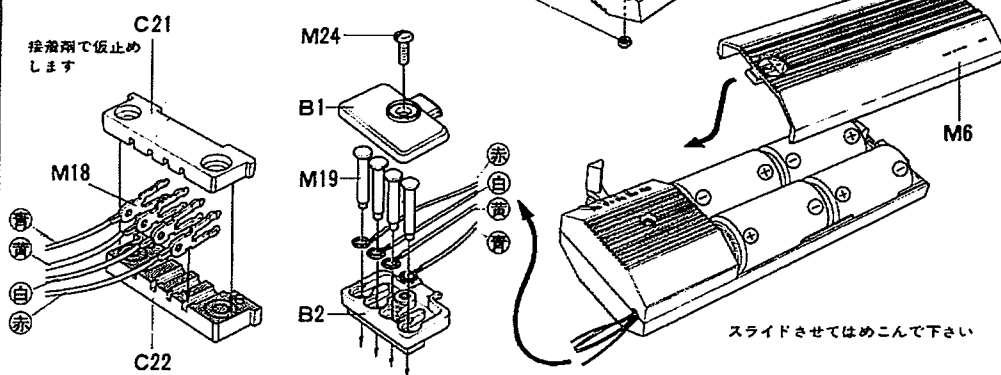
2 モーターの取付け



3 リモコンボックスの作り方



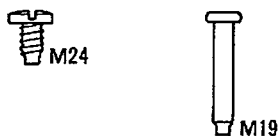
4 コネクターの組立て



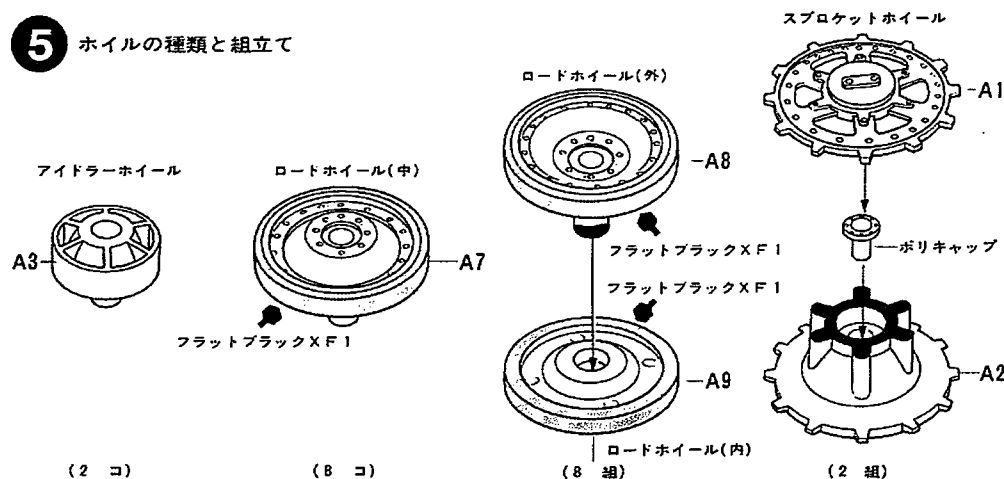
スライドさせてはめこんで下さい

④(コネクターの組立て)

机の上に飾るときにリモコンボックスとコードをはずしておくために、コネクターを作りました。金具部品をまちがえないように、下の図を参考にして組立てて下さい。



5 ホイールの種類と組立て



(2 コ)

(8 コ)

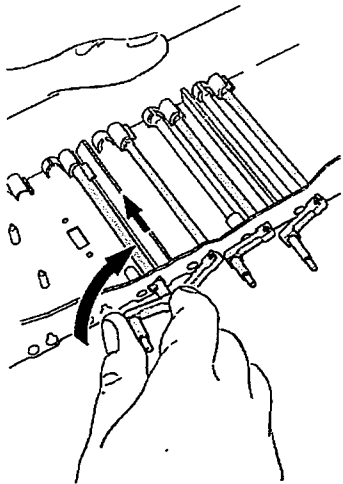
(8 組)

(2 組)

⑥ トーションバーの組立て

特殊プラスチックの棒のねじれ復元というバネの性質を利用して実車と同じ作用で、サスペンションをきかせています。

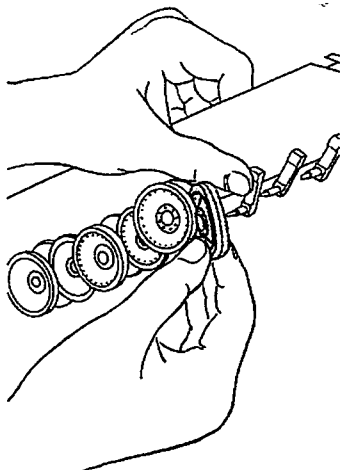
取付けるときにあまりねじりすぎるとこわれますから、注意して取付けて下さい。



トーションバーをいっばいに差し込んでから手をはなして下さい。

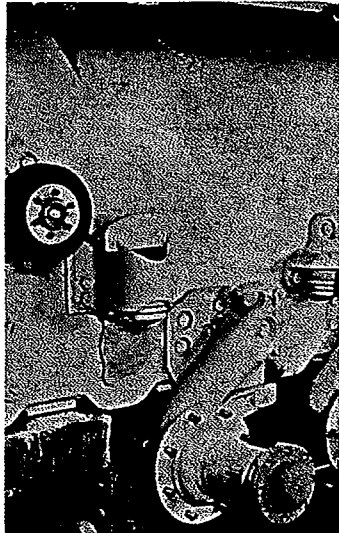
⑦ ホイールの取付け

ホイールは、外側と内側の2種類あります。順序をよく注意して取付けて下さい。ポリキャップは片側のホイールが全部ついた後に押し込んで下さい。



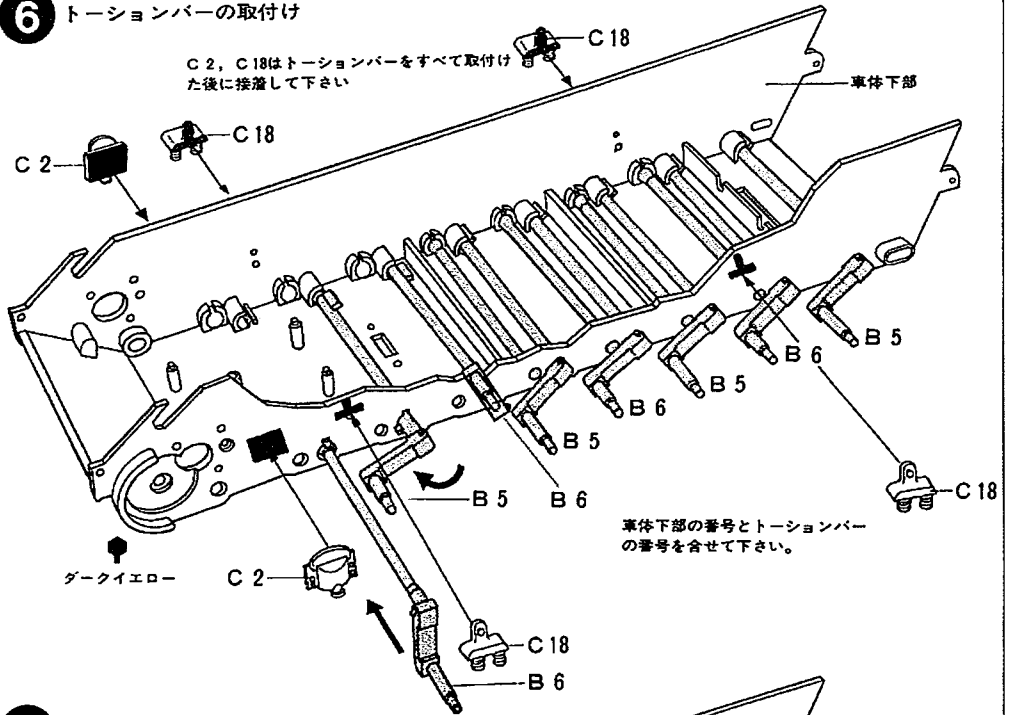
左手でトーションバーを少しさげるようにして、ホイールを外側から取付けて下さい。

〈トーションバー参考写真〉



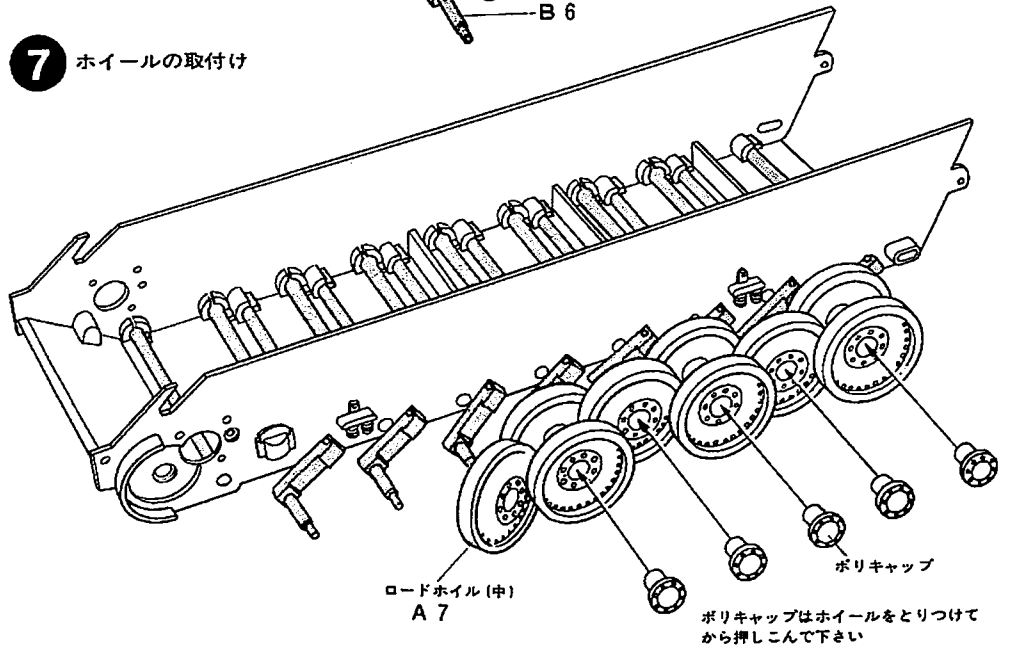
⑥ トーションバーの取付け

C 2, C 18はトーションバーをすべて取付けた後に接着して下さい



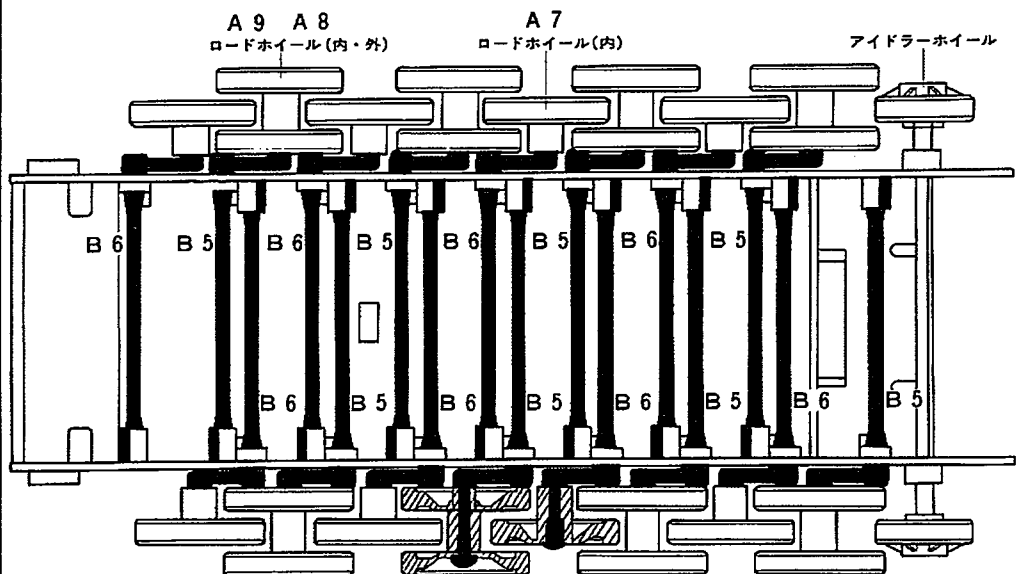
車体下部の番号とトーションバーの番号を合せて下さい。

⑦ ホイールの取付け



ポリキャップはホイールをとりつけてから押しこんで下さい

⑧ トーションバーとホイールの配置図

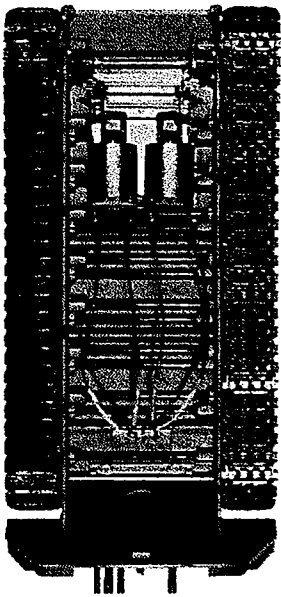
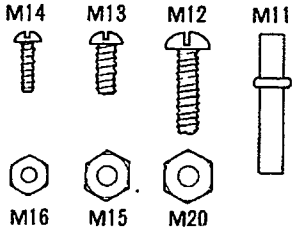


⑨<ファイナルギヤの取付け>

突車と同じ型式で動力を伝達します。
 ＊まず右側のファイナルギヤケースを組立てて車体にとりつけて下さい。
 ＊次にモーターギヤボックスをとりつけますが、ギヤボックスはネジ止めしないで下さい。
 ＊左側のファイナルギヤケースをビスナットで固定します。左右のギヤケースが固定したのちに、ギヤボックスをビスで固定して下さい。

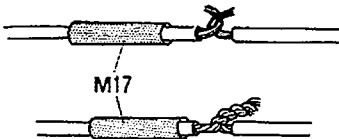
<使用するビスの大きさ>

1/25の戦車のギヤには、大きな力がかかります。各パーツは、ビスとナットで取り付けられますが、ビスの大きさをまちがえないように、下の図を参考にして組み立てて下さい。



⑩<電気配線とスイッチのテスト>

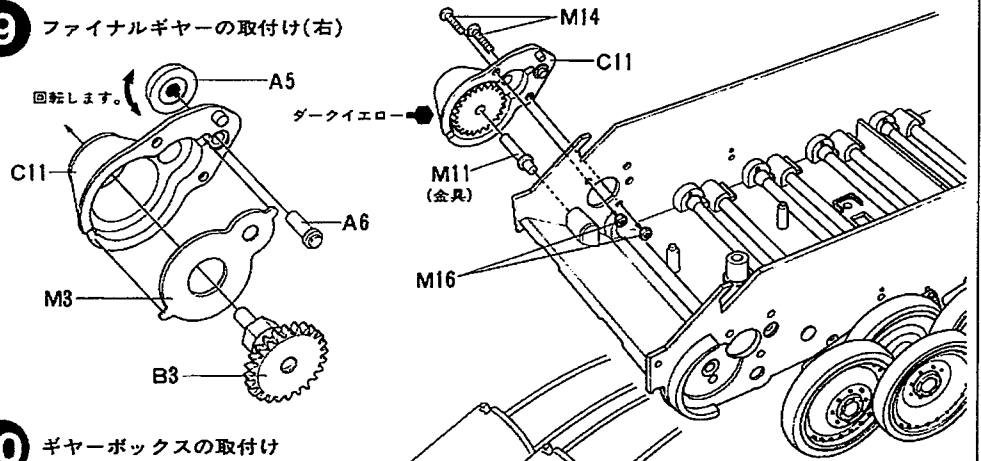
モーターに各コードを配線して下さい。結び合せた線が直接触れないように2つに切ったビニールパイプをかぶせます。ビニールパイプをなくした場合はセロファンテープでも代用できます。



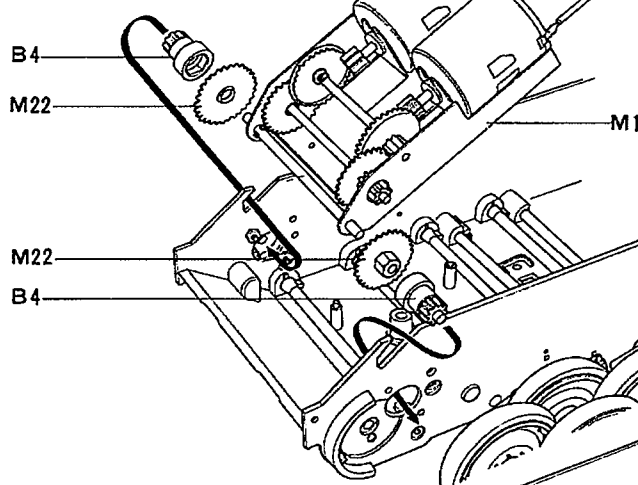
スイッチを入れて走行状態をテストして下さい。

＝スムーズな走行を楽しむために＝
 ＊可動部に油をさすのが一番よい方法です。
 ＊動物性の油〔機械油〕はプラスチックを侵かしますから、サラダオイル等の植物性油がよいでしょう。

9 ファイナルギヤの取付け(右)

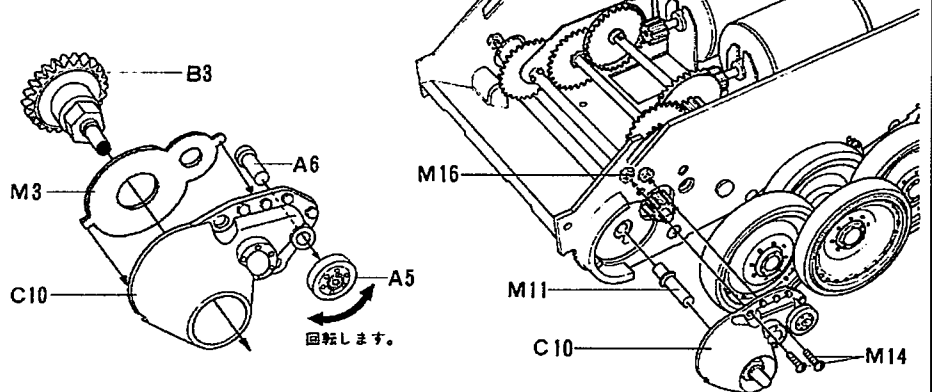


10 ギヤボックスの取付け

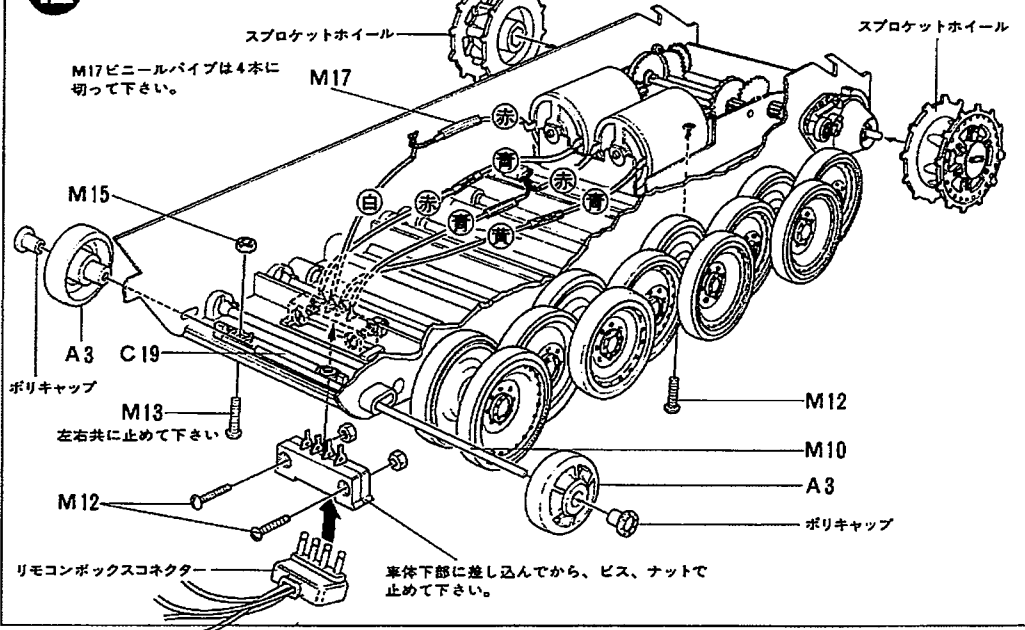


ドライブギヤ-B4を車体にとりつけておき、M22をつけたギヤを、右側から先に車体にとりつけて下さい。

11 ファイナルギヤの取付け(左)

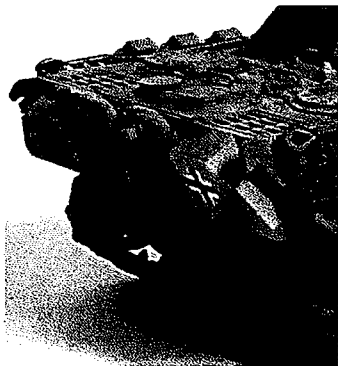


12 車体下部部品の取付け



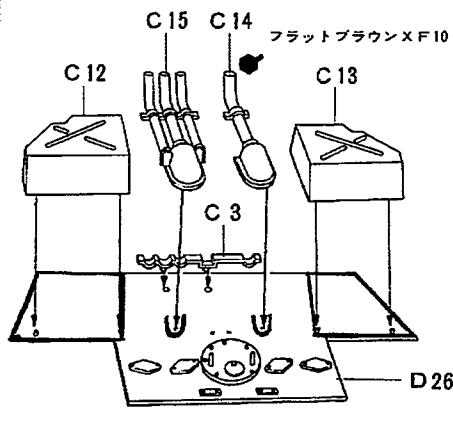
12 後部パネルの取付け

エキゾーストパイプ、工具箱を取付けてから、ジャッキを取付けます。後部パネルは車体上部のとりはずしのときに力のかかる部分です。接着剤はかならず、両面につけてはり合せて、キャタピラを組立てる間さわらないで下さい。

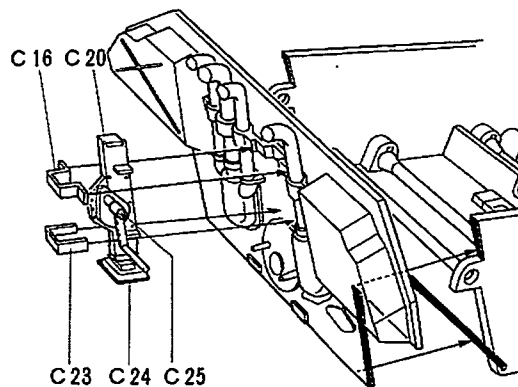


13 後部パネルの組立てと取付け

13 後部パネルの組立てと取付け



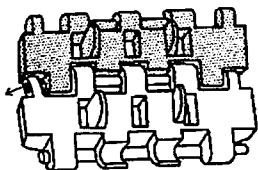
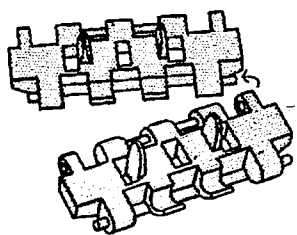
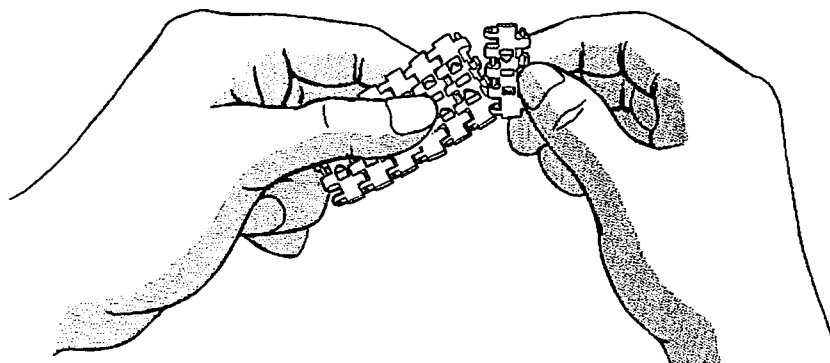
後部パネルは力のかかる部分です。接着剤を十分に着けて組立てて下さい。



14 キャタピラの組立て

キャタピラは特殊な材質のプラスチックで出来ています。キャタピラのツメのある側(裏側)を見ながら組立てて下さい。下方のヒンジをはめこんだのちに、上方のヒンジをつめておこなながら組立てるのがコツです。

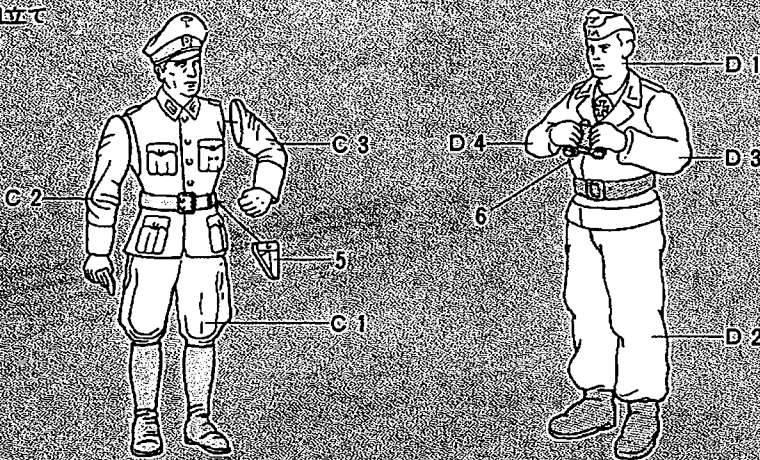
14 キャタピラの組立て



15 人形の組立て

人形の組立てでは、部品の合せ目をヤスリ等で平らにしてから組立てること。又金型の合せ目(パーティングライン)もけずって組立てましょう。P13に詳しい塗装指示がのっていますから、参考して下さい。塗装にはスケールモデル専用のタミヤカラーが便利です。

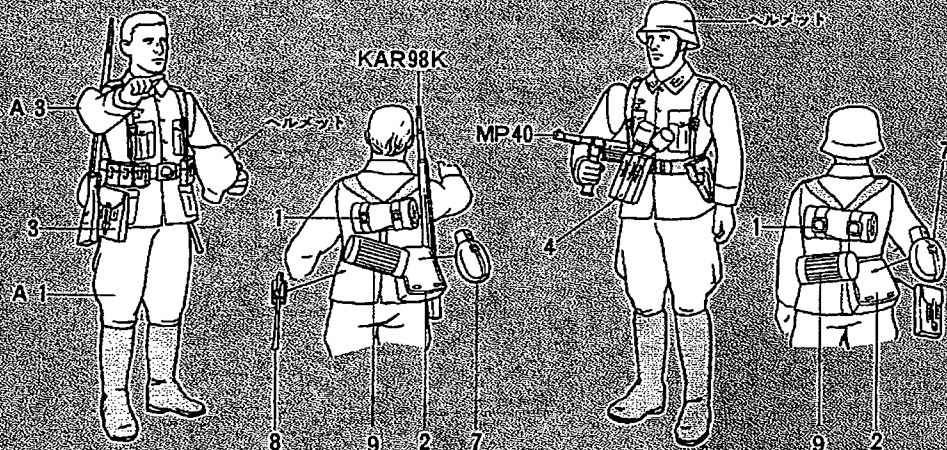
15 人形の組立て



迷彩服について

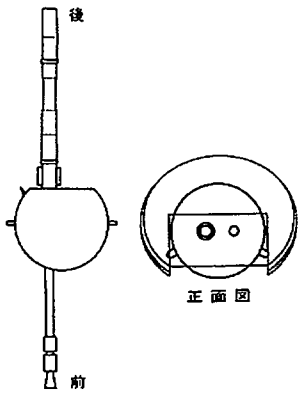
1943年に迷彩上衣(下図が採用されました)。またヘルメットを同じ迷彩模様の布で、おおい包む事もありました。迷彩服

戦争後期、国防軍将校に支給された。



TAMIYA'S MODELS
For the latest models available from Tamiya, see the new edition of the full colour catalogue at your nearest hobby supply house.

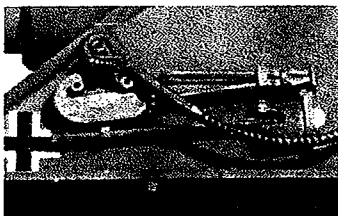
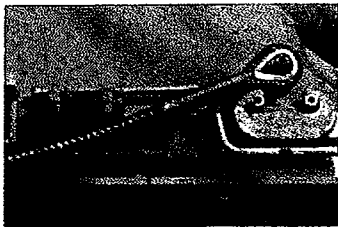
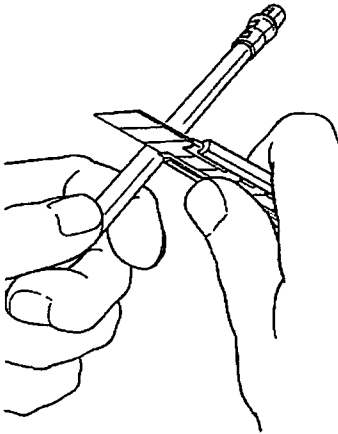
⑩ 〈機銃とストッパーの取付け〉
機銃はC27のマウントに固定しますがマウントは動きますから、接着剤がつかないように注意して下さい。マウントには右・左があります。



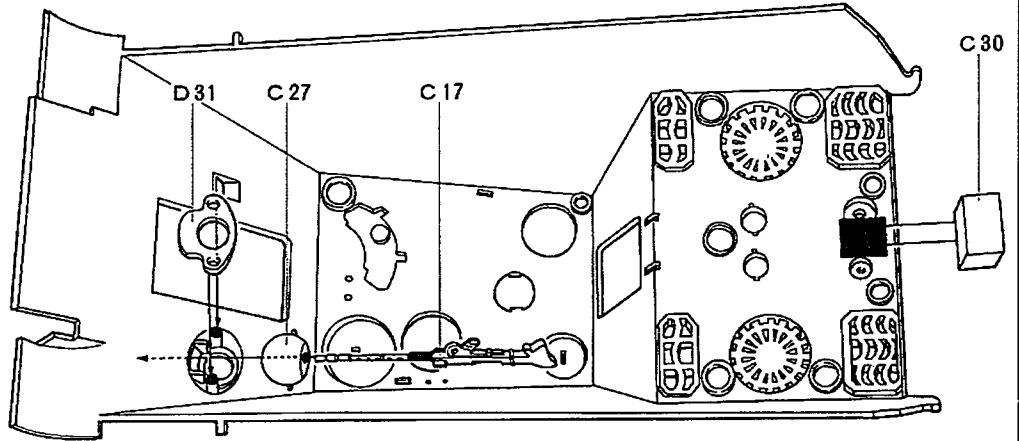
⑪ 〈上部部品の組立て〉
各部品を車体上部にとりつける前に組立てておいて下さい。ガソリタンクは3組できます。車体上部の好みの位置にとりつけて下さい。



⑫ 〈砲身の組立て〉
砲身は上下に動きます。砲身は接着した後、よく乾いてから、合せ目をナイフ等できれいにするのがコツです。

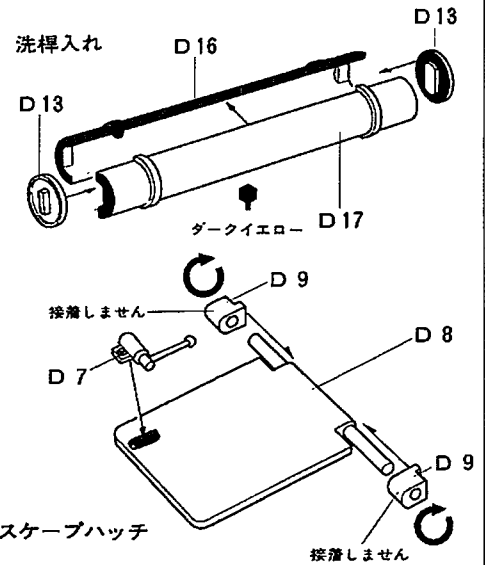
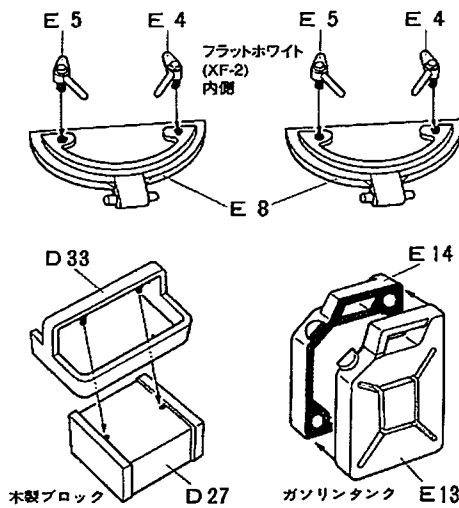


16 機銃とストッパーの取付け

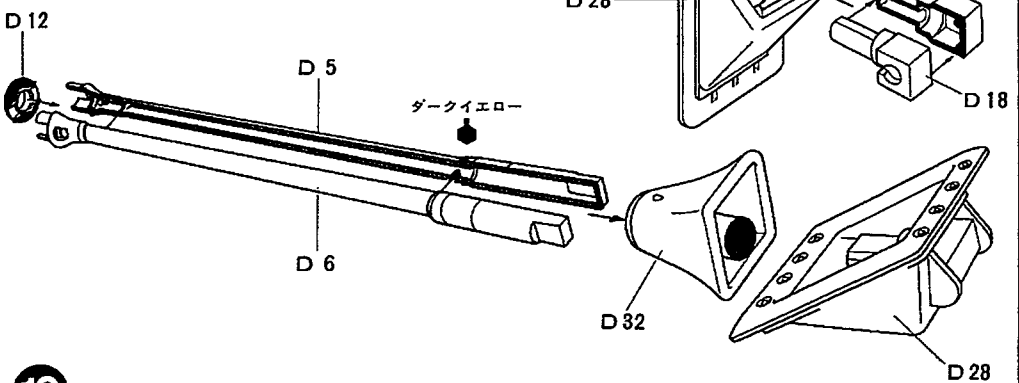


C30は力のかかる部分です。接着剤は充分につけて、乾燥時間をおいて下さい。

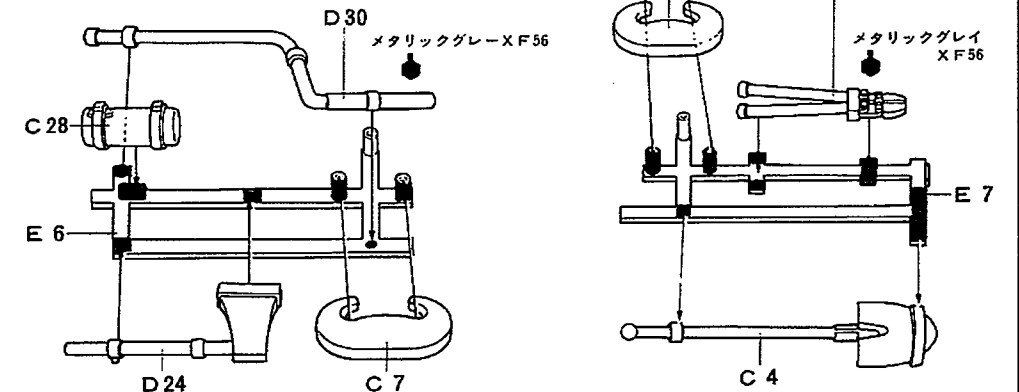
17 上部部品の組立て



18 砲身の組立て

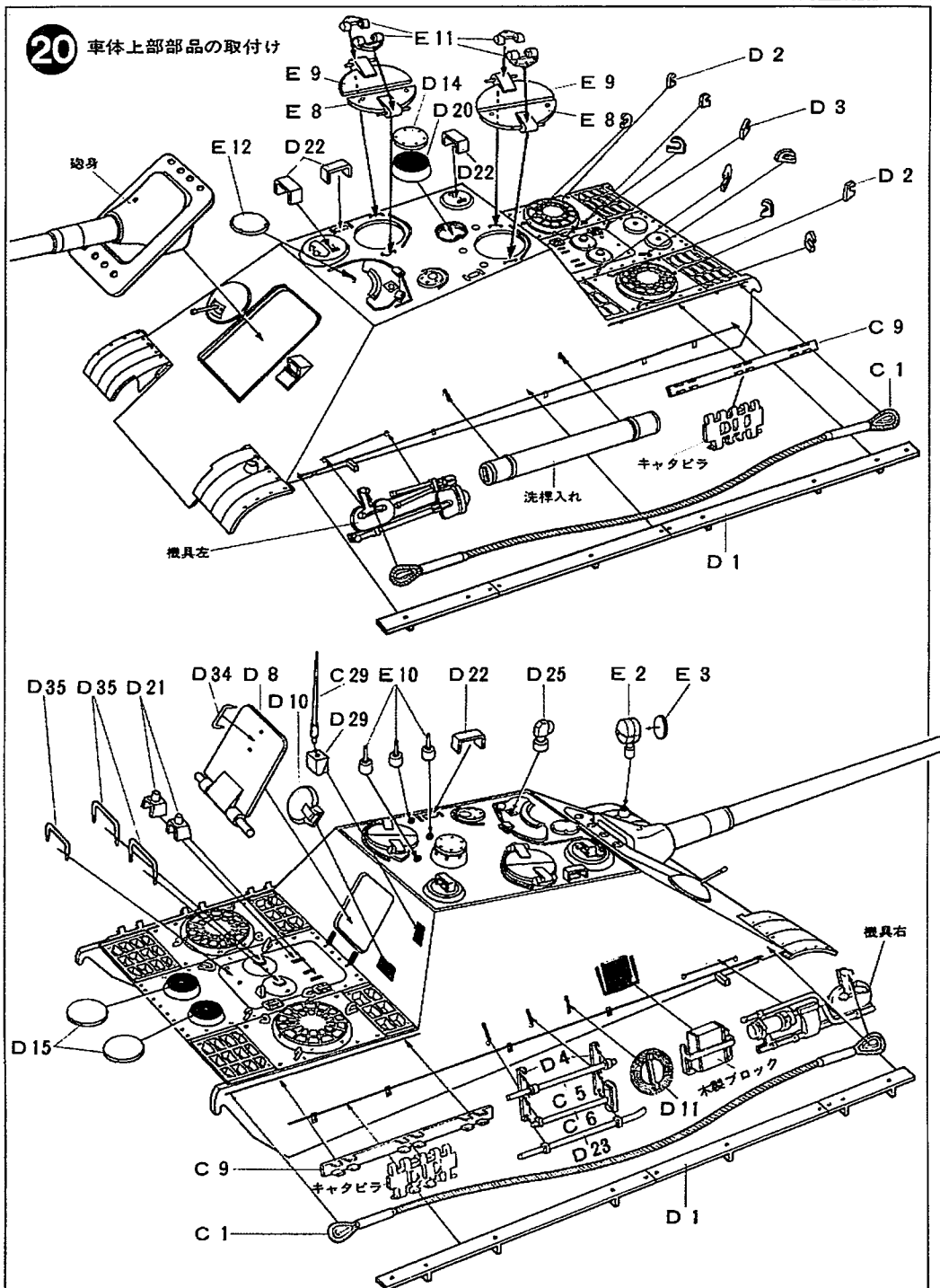
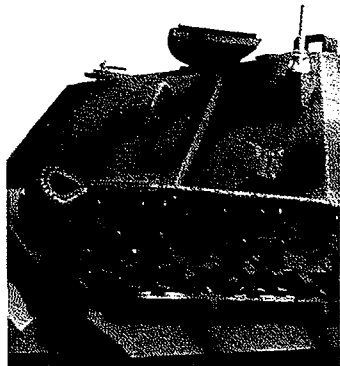


19 機具のとりつけ



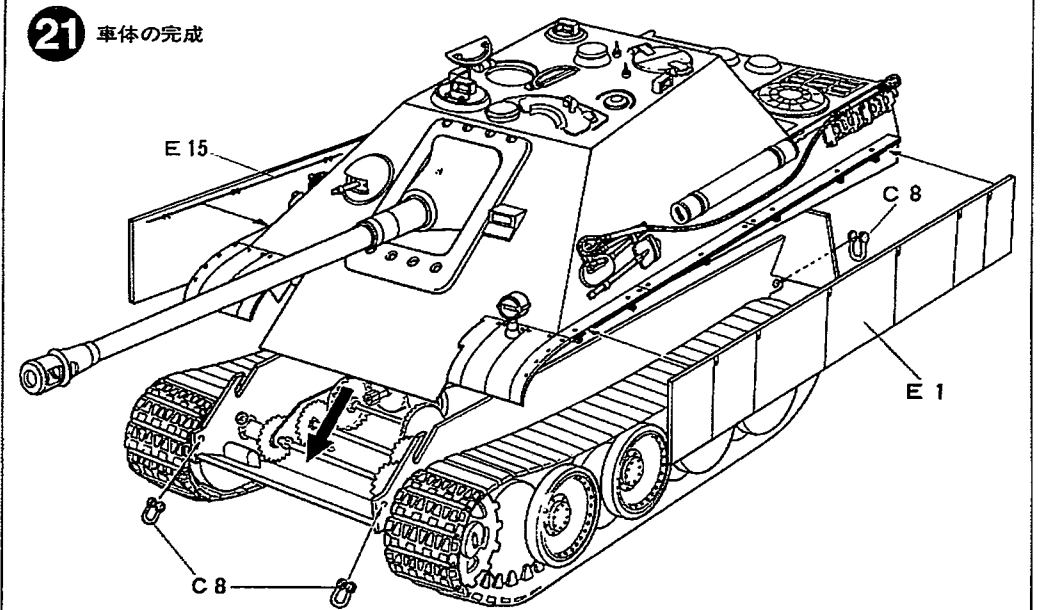
⑳ (車体上部部品の取付け)
 車体上部の細かな部品は接着剤をつけすぎないように取りつけて下さい。
 キャタピラは接着剤をつけずに、キャタピラ止めにかけて下さい。

(キャタピラ参考写真)



㉑ (車体の取付け)
 車体上部の取付けは、まず前部を下部のみぞにさしこんで下さい。後部は上から押えこんで、パチン、とはめこんで下さい。
 上部のとりはずしは、車体後部パネルをうしろにたるませてから上部を上にあげて下さい。

(自由なスカートのとりのつけ)
 実車のスカートは一枚の鉄板ではなく7枚の板がつなぎ合されています。中間の板をとりさって、実車らしい感じをだすのもよいでしょう。



タミヤニュースを読む
 タミヤニュースはモデル作りの参考誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

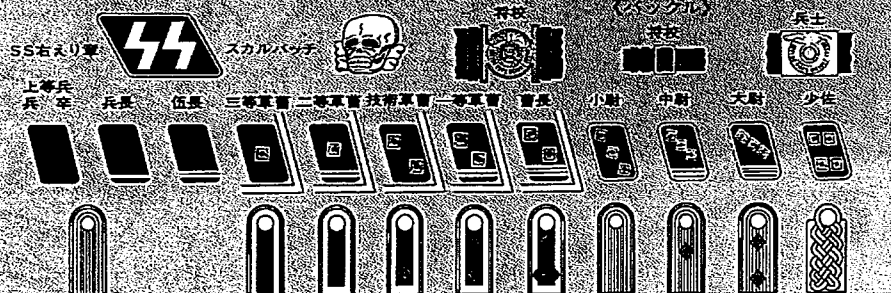
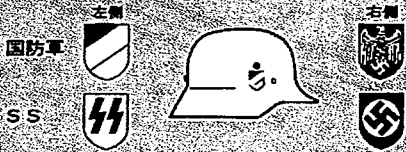


FIGURES

（人形の塗装）

ミリタリーミニチュアにくらべて約2倍の面積になった大きな人形は、細かな塗装を楽しむことができます。フレッシュの色で塗りつぶしていた顔に、目や口ひらなどでいねいに書きこんで下さい。又ひげをそだあどなどの調子をつけるのもももしろいでしょう。ドイツ軍は、国防軍と親衛隊では、服表や各種の階級章などの色が異なっていました。帽子、肩章、襟章、アームバンド等の色を細かく指示してみました。大きな人形の細かな塗装を楽しんで下さい。

（ヘルメットのマーク）



APPLYING DECALS

このページではロンメル戦車につけられたマークや番号について説明するとともに、その意味、使われ方についても説明してあります。これらはロンメル戦車がドイツ戦車部隊の主力となった1944年頃の状況について説明したもので、ロンメル戦車だけでなく、他のドイツ戦車や軍用車にもあてはめることができます。このページの説明をよく読み、マークや番号のつなかりを理解して、あなたのロンメルに正しいマーキングをするのももちろん、これからの模型作りにも役立てて下さい。

（ヤークト・パンサーの車体番号）

大戦中のヤークト・パンサーの写真を見ると車体上部の戦闘室側面に3ケタのアラビア数字が描かれている。これが車体番号で、ドイツ戦車の砲塔に見られる砲塔番号と同様に、それぞれの戦車の所属を表すものである。

色は赤字を白ワケで囲んだものが多い。この3ケタの数字が表す意味は
 1ケタ目.....車体番号
 2ケタ目.....小隊番号
 3ケタ目.....中隊番号
 となる。すなわち車体番号が121であれば、第1中隊第2小隊第1号車（すなわち第2小隊小隊長車）ということになる。また3ケタ目がアルファベットのAのものもあるが、これは大隊本部所属車を表す。ただし、このAを省略し、0で始まる2ケタの数字としたものもある。
 A 0 1.....大隊本部1号車：大隊長車
 A 0 2.....大隊本部2号車：大隊副長車
 1 0 1.....第1中隊本部1号車：第1中隊長車
 1 1 1.....第1中隊第1小隊1号車：小隊長車
 1 3 4.....第1中隊第3小隊4号車
 2 1 2.....第2中隊第1小隊2号車
 と読むことになる。ただし例として第2中隊車もあげてみたが、ヤークト・パンサーの生産量がごく少ないため、部隊の定数を完全に満たすことはできず、ヤークト・パンサーのみで全大隊を編成した例はない。実際に配備されたのは、第1中隊のみにとどまったようである。

（SS戦車師団対戦車砲大隊の編成）
 ヤークト・パンサーの生産は大戦末期の1944年中頃から始められたため、その生産数も約380台と少なく、全戦車をヤークト・パンサーで編成した部隊はほとんど無いといつてよい。ヤークト・パンサーで編成された部隊は大ざっぱに見て大のようになる。1. 国防軍の独立対戦車砲大隊の1部。例として第1299対戦車大隊があるが実際には1ケ中隊のみのヤークト・パンサーで編成された。2. SS戦車師団の対戦車砲大隊。ヒトラーの命により、SS部隊は優先的に兵員、兵器が増強され、SS戦車部隊の中にも、第1、第2、第10、第12の各SS戦車師団のようにヤークト・パンサーを持つ師団があった。この当時のSS戦車師団の対戦車砲大隊の標準的編成は、駆逐戦車を中心とみると、大隊本部中隊にマーグーIII型が2台、その下に3ケ中隊と補給中隊がある。第1中隊はヤークト・パンサー、第2中隊はハッツァーで構成され、中隊本部には2台の駆逐戦車が配備された。小隊は第2小隊まであり、4台の駆逐戦車で編成された。第3中隊は牽引の対戦車砲を持つ。

PAINING

（ドイツ戦車の色について）

1935年から1943年の2月に至るまでドイツの軍用車はアフリカ向けの黄と本色のコンピのものど灰色と緑色のコンピ以外は灰色一色と定められたのです。もちろんすべてに白のつや消しの色です。次に1942年に至ってこのアフリカ向けの三種のコンピはブラウン（本色）におさかえられました。ソビエトと戦った東部戦線ではウィングーホワイト（灰色がかった白）がオーバスプレーで使用されましたがこの色はあてふさぎでももとの色を汚さない様に大任のものが使用されてきました。1943年2月18日に中央からの通達でそれまでの色は全部廃してすべて暗い黄色におさかえられました。それからこの指令（2月18日）以降のドイツ戦車の基本的な色は暗い黄色であるといつて差支えありません。その他の色はすべて戦場によってカモフラージュ効果のために現地車かこの色の上に重ねて塗ったものです。そのうえドイツ機甲師団は戦車一台について大の色をそれぞれ2キ回ずつ持

たせて戦場に向かわせていたのです。オリーフドラフ（米軍の色）レッドブラウン（赤の入った褐色）ダークイエロー（正式色）従って塗装の仕方はこの三色を自由に使うのではなく、大きな大きな色をつたり線状に塗ったり、スプレーでふきつけたりしても差支えないのです。ただ、ダークイエローが正式色ですので、この色が使われていない迷彩塗装はあり得ないこととなります。このカラー使用法は大戦末期まで続けられました。もっとも1945年春になるとダークグレイ色の車両も見つけられるようになっていますがこれは重戦車と重火器に限られています。

（実感のある塗装）

戦車の実感をたす方法に、いわゆる「よごし塗装」があります。
 ●実戦時、弾丸があたってえぐれた状態
 ●砂漠、泥沼などを走ってよごれた感じ
 ●エキゾーストパイプ（排気管）のすすのよごれ
 ●スプロケットホイールの歯が磨耗して光っているようす
 ●オイルヤケルなどの工具類の、戦車の行動時を想定して行なう再塗装。

（戦車細部の塗装）

細部への塗装指示は組立図中に示してあります。
 ＊細部への塗装はキットを組み上げた、タンクカラーで全体を吹付塗装してから行ないます。
 ＊ヘッドライト、テールライトなど細かな所への塗装には細筆を使い、ロードホイールなどへの塗装には平筆を使って下さい。
 ＊塗装には、タミヤカラーが便利です。各部分の色はタミヤカラーで指定してあります。



塗料、溶剤の取扱いは火気を近づけないよう充分注意して下さい。



〈師団マークについて〉

第1SS戦車師団 (戦車親衛隊)
ライプスタンデル・アドルフ・ヒトラー
ダス・ライヒと並んで最も伝統あるSS師団、
ノルマンディ当時から新しいマークを使用。

第2SS戦車師団 (戦闘親衛隊)
ダス・ライヒ
1941年に編成。東部戦線、ノルマンディー、
アルデンヌの戦いに参加して活躍した。

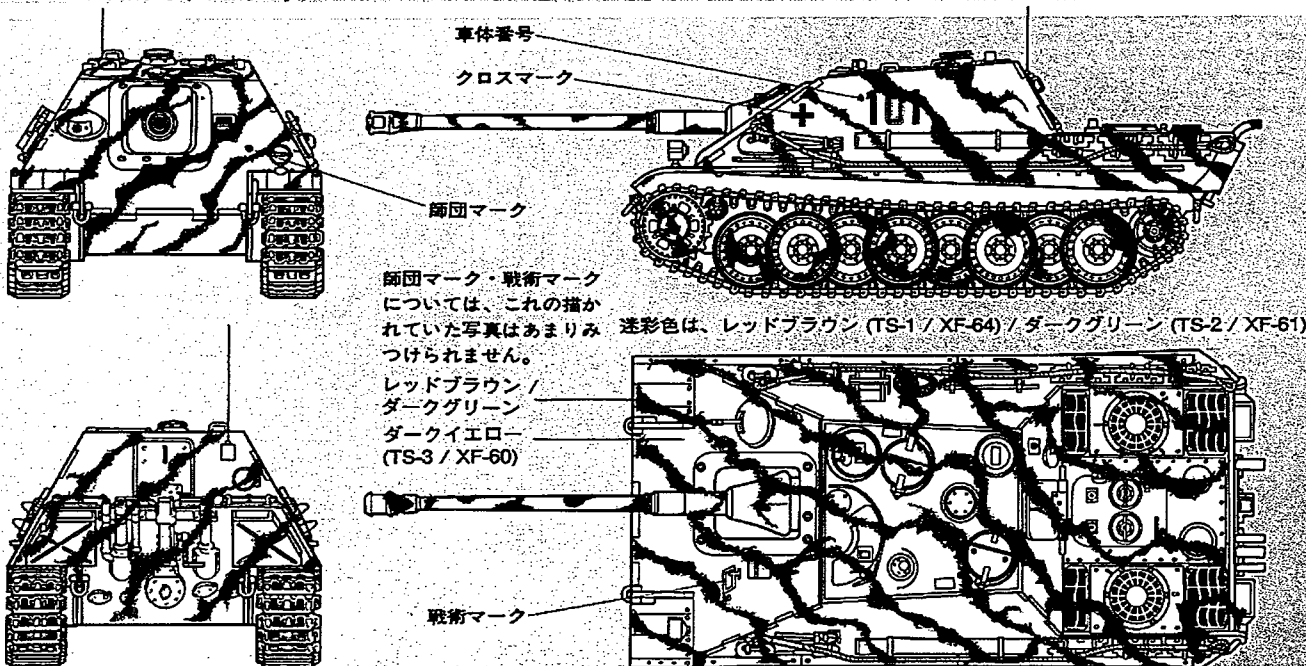
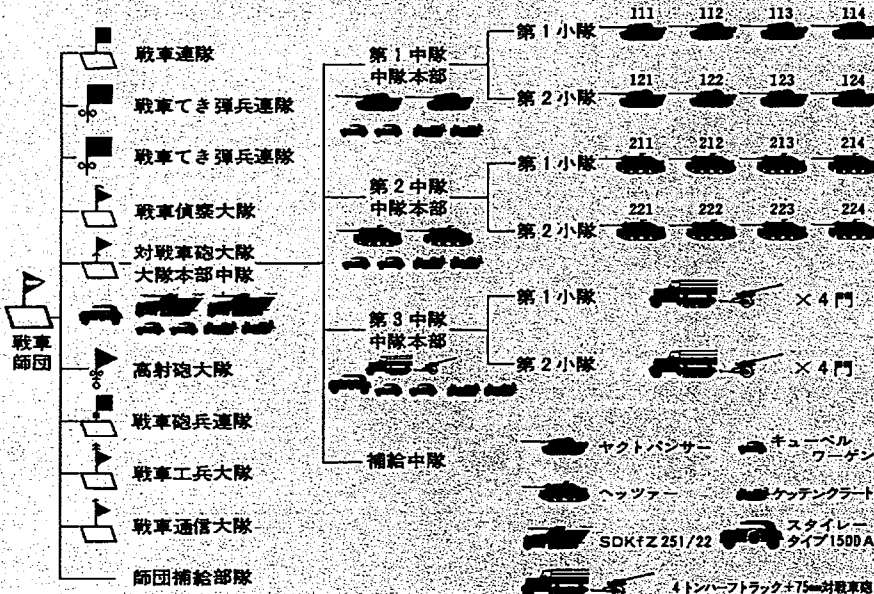
第10SS戦車師団 (戦闘親衛隊)
フルンズ・ベルグ
1943年2月、戦車でき弾兵師団として創設、
同年秋より戦車師団に改編された。

第12SS戦車師団 (戦闘親衛隊)
ヒトラー・ユングント
1943年夏、ヒトラー青少年団の年長メンバ
ーで編成、アルデンヌの戦いなどで活躍した。

〈戦術マークについて〉

ドイツ軍は作戦中の戦術略標として、
形から兵器や兵科が識別できる記号を用いま
した。マークの右下の数字は中隊番号です。

〈ドイツSS戦車師団の編制 (1945年当時)〉



PARTS

A 部品

1. スプロケットホイール(外)
2. スプロケットホイール(内)
3. リヤホイール
4. 下部部品
5. アイドラーホイール
6. アイドラーホイール用シャフト
7. ロードホイール(中)
8. ロードホイール(外)
9. ロードホイール(内)

B 部品

1. コネクター A
2. コネクター B
3. ファイナルギヤー
4. ドライブギヤー
5. トーションバー(長)
6. トーションバー(短)

C 部品

1. ロープ
2. ストッパー A
3. エキゾーストパイプ受け
4. シャベル
5. 金テコ
6. ハンマー
7. ジャックル
8. フック
9. 補助キャクピラかけ
10. ファイナルギヤーケース(左)
11. ファイナルギヤーケース(右)
12. 工具箱(左)
13. 工具箱(右)
14. エキゾーストパイプ(右)
15. エキゾーストパイプ(左)
16. ジャッキおさえ
17. MG-34
18. ストッパー B
19. リヤシャフト止め
20. ジャッキ A
21. コネクター C
22. コネクター D
23. ジャッキ受
24. ジャッキ B
25. ジャッキハンドル
26. ワイヤカッター
27. 機銃受け
28. 消火器
29. アンテナ
30. 乗降止め

D 部品

1. スカート
2. フック A
3. フック B
4. 工具架
5. 砲身 A
6. 砲身 B
7. エスケープハッチレバー
8. エスケープハッチ
9. エスケープハッチヒンジ
10. 衝突排出用ハッチ
11. 作戦用ロープ
12. マズルブレーキ
13. 洗擇入れキャップ
14. ベンチレーターA
15. キャップ
16. 洗擇入れ A
17. 洗擇入れ B
18. 砲身基部 A
19. 砲身基部 B
20. ベンチレーターB
21. ハッチストッパー
22. ベリスコップカバー
23. 金テコ
24. オノ
25. ベリスコップ
26. リヤパネル
27. 木製ブロック
28. カラー
29. アンテナ受け
30. クランク
31. 機銃受け
32. ガンシールド
33. 木製ブロック入れ
34. エスケープハッチ用フック
35. フック

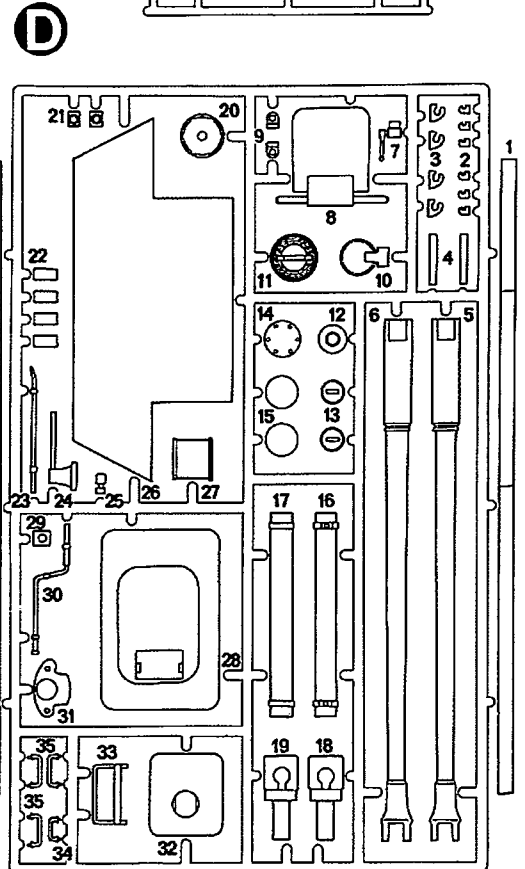
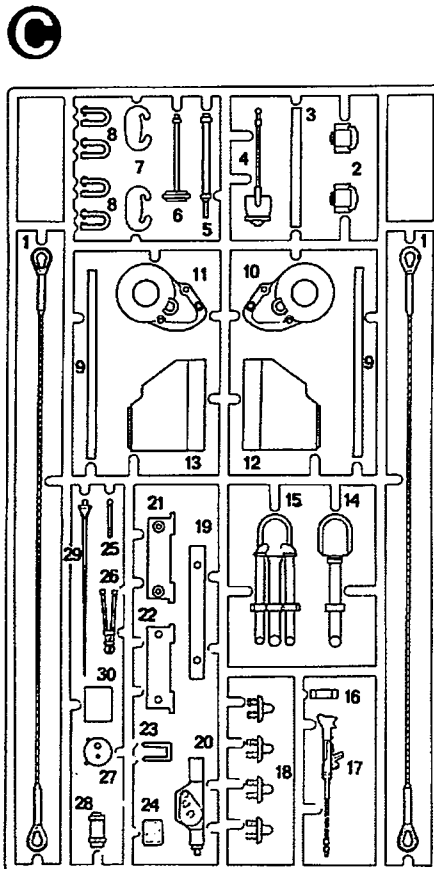
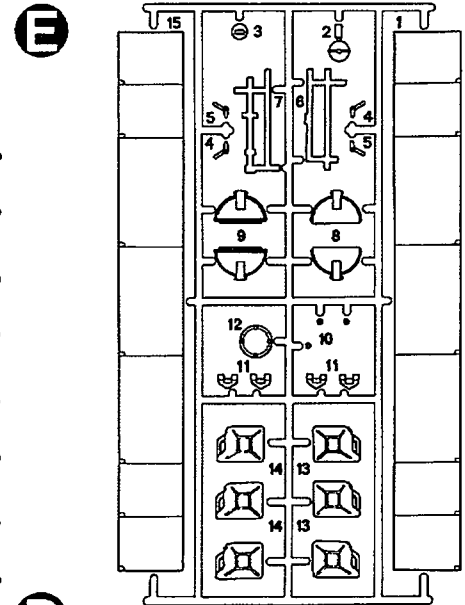
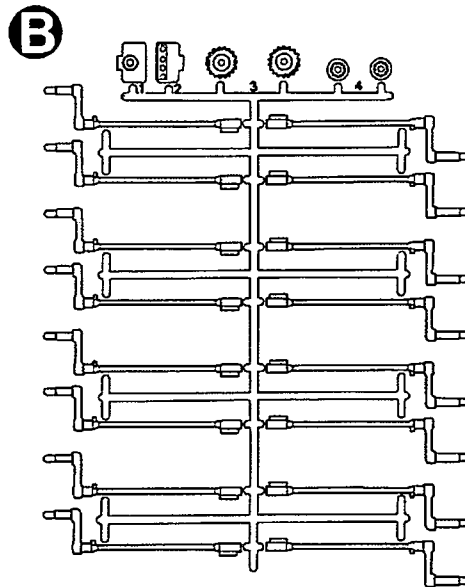
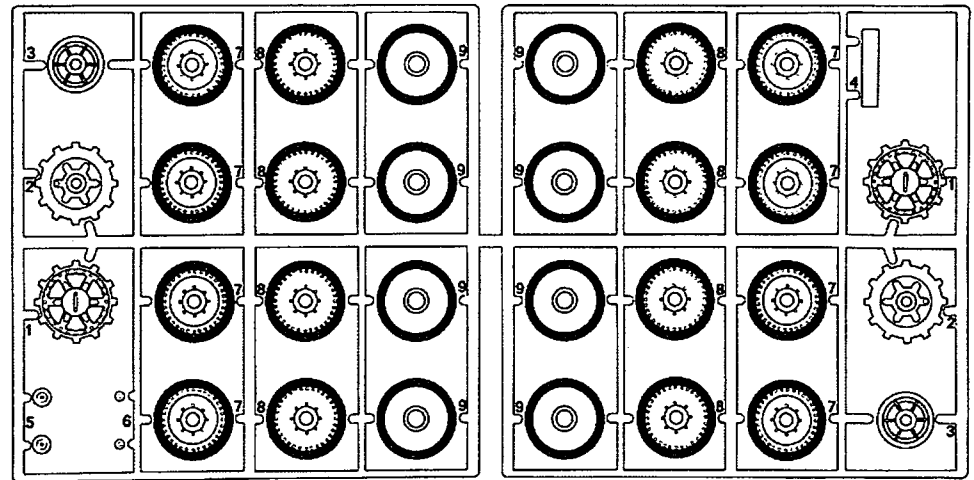
E 部品

1. スカート(左)
2. ライト
3. ライトカバー
4. ハッチレバー A
5. ハッチレバー B
6. 機具架(右)
7. 機具架(左)
8. ハッチ A
9. ハッチ B
10. 部品
11. ヒンダ
12. ベンチレーター
13. 補助タンク A
14. 補助タンク B
15. スカート(右)

M 部品

1. リモコンギヤーボックス (1)
2. 10枚ビニオンギヤー (2)
3. ギヤー金具 (2)
4. リモコンボックスA(1)
5. リモコンボックスB (1)
6. リモコンボックスC(1)
7. スイッチ金具 (4)
8. スイッチ板 (1)
9. レバー金具 (2)
10. 3φシャフト (1)
11. 3φヘッター (2)
12. 3φ×10ビス (3)
13. 2.6φ×6ビス (2)
14. 2φ×6ビス (4)
15. 2.6φナット (2)
16. 2φナット (4)
17. ビニールパイプ (1)
18. コネクター金具 (4)
19. 2φ×11リベット (4)
20. 3φナット (3)
21. 3φ×27ビス (1)
22. ドライブギヤー(大)(2)
23. スイッチレバー (2)
24. 2.3φ×4ビス (3)

A フラットブラック



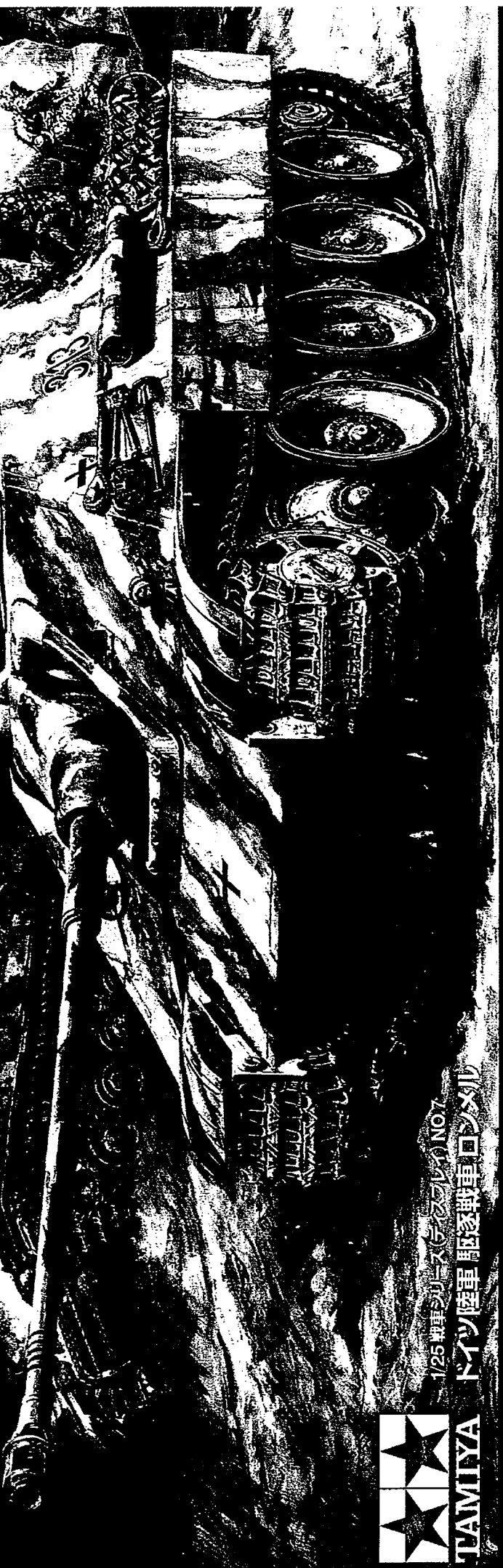
JAGDPANTHER

Jagdpanzer V Jagdpanther (Sd.Kfz.173)

GERMAN LIGHT TANK DESTROYER JAGDPANTHER

READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT * MODEL MAXIMALLY FROM 1/25 SCALE *
* DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS AGE 14 AND ABOVE. THIS KIT IS A
CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED

ITEM 30607



1/25 戦車キット (Sd.Kfz.173) NO.7
ドイツ陸軍 駆逐戦車 図 101

補足説明図 Supplementary Instructions

このキットは1973年に発売された製品をディスプレイモデル化し復刻版です。部品や説明図は当時の物を使用していますが、モーターや電池盒などのリモートコントロール用の部品は入っていません。組み立ての際は補足説明図をいっしょにご覧ください。

This kit is a re-release of the original 1973 product. While it has the same parts and instructions, the motor and battery terminals for the motorization mechanism are not included. Refer to the supplementary instructions when assembling.

本文説明図中の組立順番 ① から ⑭ はこちらの補足説明図の順番で組み立てを行ってください。組立順番 ⑮ からは本文説明図と共に補足説明図を参照してください。Refer to these Supplementary Instructions for assembly steps ① - ⑭. From Step ⑮ onwards, refer to both the original instructions and Supplementary Instructions.



READ BEFORE ASSEMBLY

注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。また接着剤や塗料は、必ずプラスチック用をお使いください。(別売) ●工具の使用には十分注意してください。特にナイフ、ニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。 ●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれ注意書きをよく読み、指示に従って正しく使用し、使用するときは換気に十分注意してください。 ●小さなお子様のいる所での工作はやめてください。小さな部品の飲み込みや、ヒート線をかぶつての感電などの危険な状況が考えられます。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths or pull vinyl bags over their heads.

- お買い求めの際、または組立の前には必ず内容をお確かめください。万一不良部品、不足部品などがありました場合には、お買い求めの販売店にご相談ください。なお、組み立てを始められたあとは、製品の返品交換には応じかねます。
- 組み立てる前に説明書をよく見て、全体の流れをつかんでください。
- このキットには接着剤は含まれていません。下記のプ

ラスチック用接着剤(タミヤセメント)を別にお買い求めください。

- Study and understand the instructions thoroughly before beginning assembly.
- Read and follow the instructions supplied with paints and /or cement, if used (not included in kit).

● 塗装指示のマークです。タミヤカラーのカラーナンバーで指示しました。

This mark denotes numbers for Tamiya Paint colors.

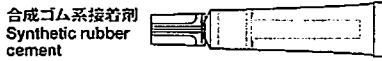
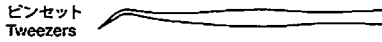
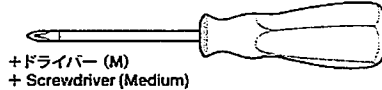
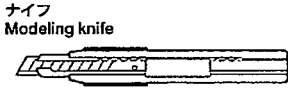
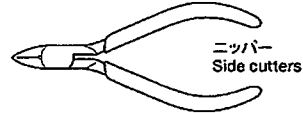
TS-1(XF-64)	●レッドブラウン / Red brown
TS-2(XF-61)	●ダークグリーン / Dark green
TS-3(XF-60)	●ダークイエロー / Dark yellow
X-10	●ガンメタル / Gun metal
X-11	●クロームシルバー / Chrome silver
XF-1	●フラットブラック / Flat black
XF-2	●フラットホワイト / Flat white
XF-10	●フラットブラウン / Flat brown
XF-15	●フラットフレッシュ / Flat flesh
XF-49	●カーキ / Khaki
XF-56	●メタリックグレイ / Metallic grey
XF-65	●フィールドグレイ / Field grey
XF-66	●ライトグレイ / Light grey

RECOMMENDED TOOLS

《用意する工具》

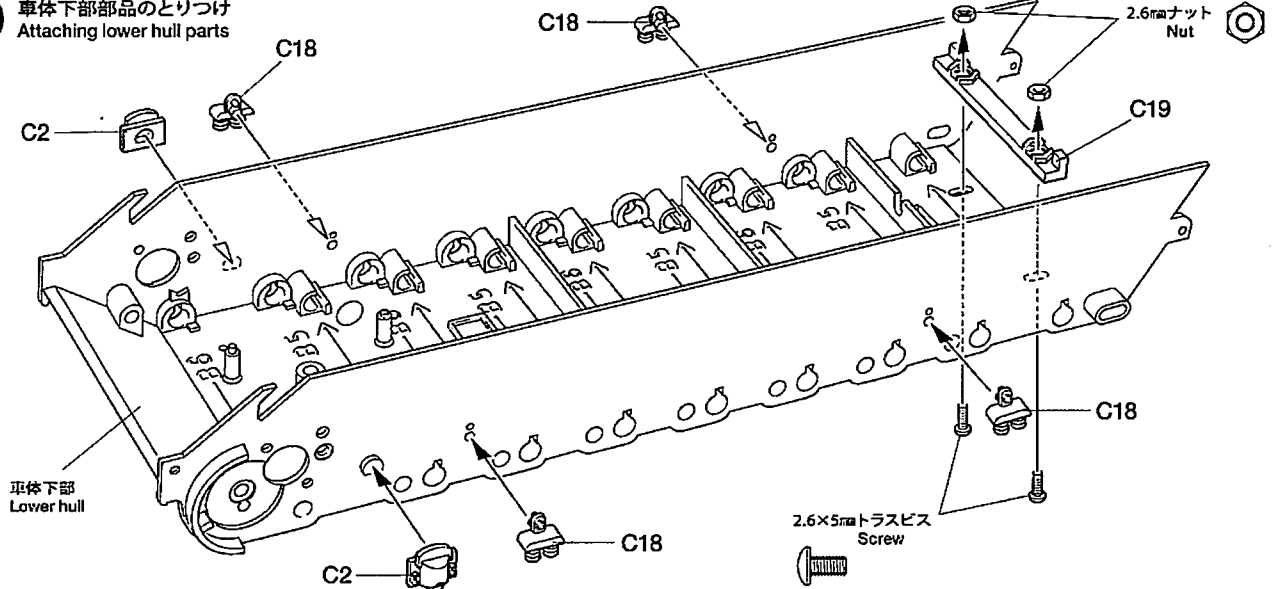
Recommended tools

接着剤 (プラスチック用)
Cement



- 組立説明図の中で塗装指示のない部品はボディ色 (TS-3) で塗装します。
- When no color is specified, paint the item with TS-3.

1 車体下部部品のとりつけ Attaching lower hull parts

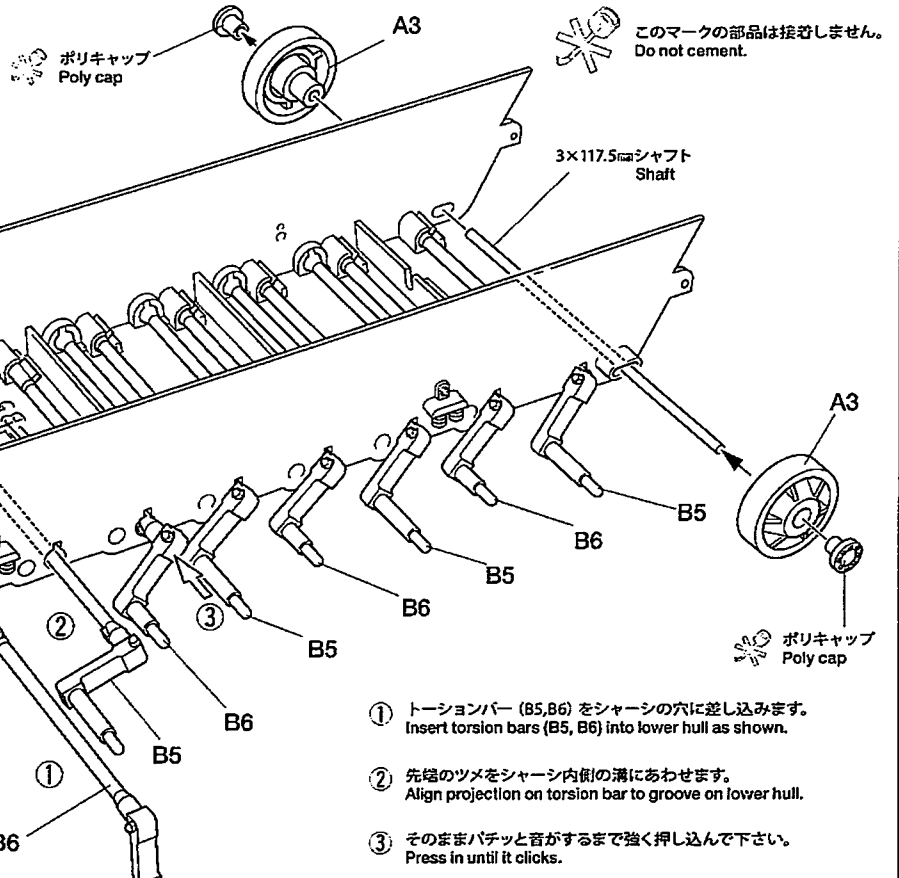


2 トーションバーのとりつけ Attaching torsion bars

- ★右側も同様にとりつけます。
- ★Attach right side in the same manner.

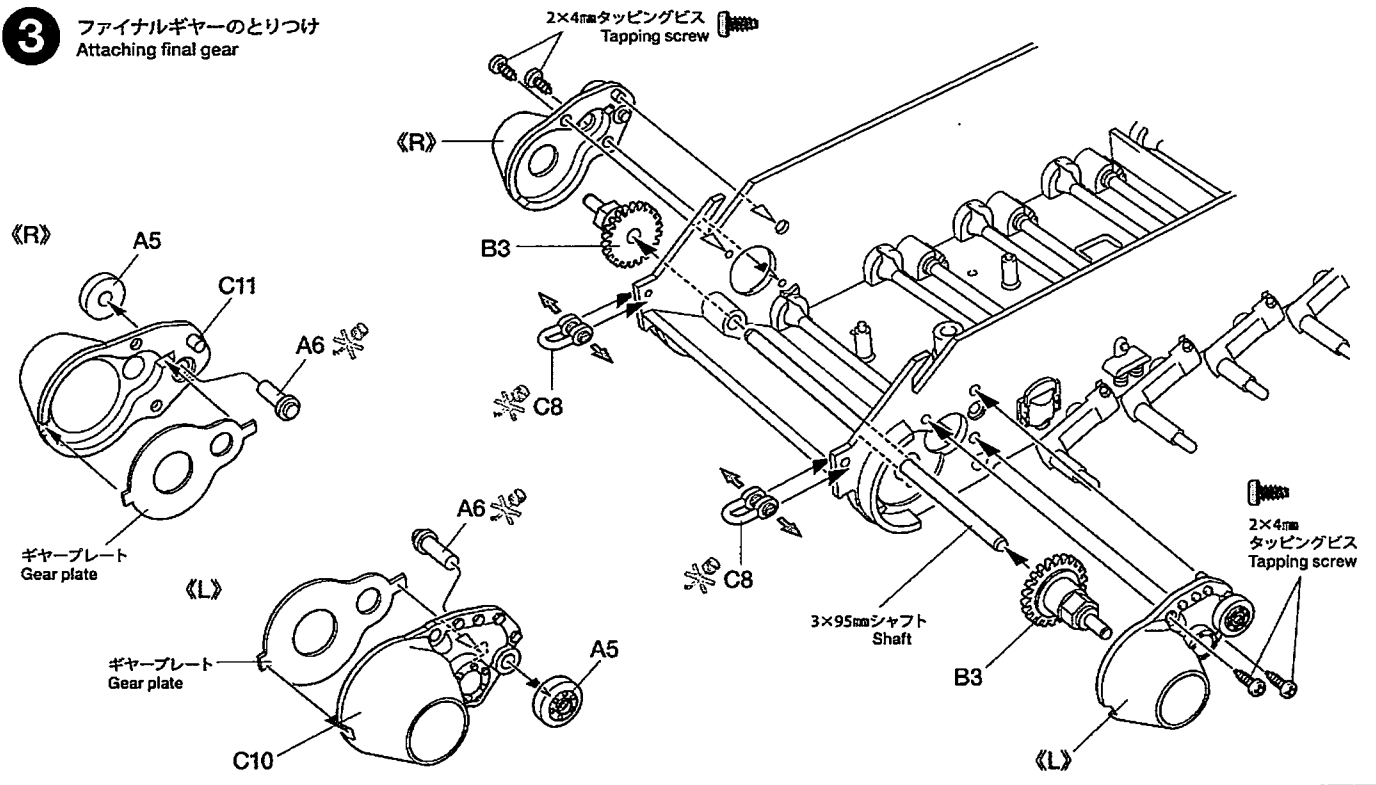
★B5とB6はシャーシに描かれた番号に従って交互にとりつけてください。

★Attach B5 and B6 so that they correspond to the numbers on lower hull.



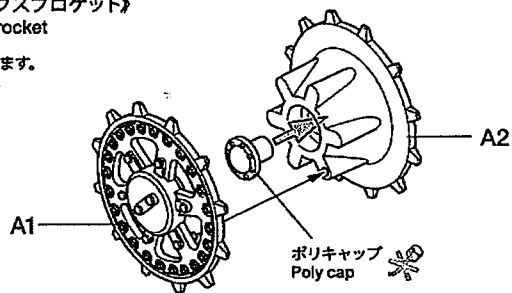
- ① トーションバー (B5, B6) をシャーシの穴に差し込みます。
Insert torsion bars (B5, B6) into lower hull as shown.
- ② 先端のツメをシャーシ内側の溝にあわせませす。
Align projection on torsion bar to groove on lower hull.
- ③ そのままパチッと音がするまで強く押し込んで下さい。
Press in until it clicks.

3 ファイナルギヤーのとりつけ
Attaching final gear



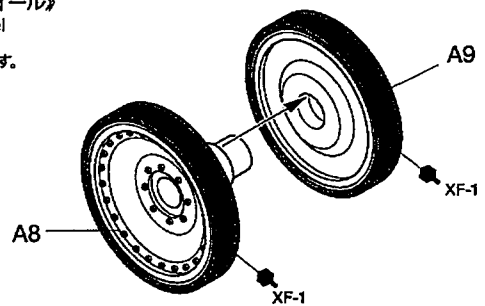
4 《ドライブスプロケット》
Drive sprocket

★2個作ります。
★Make 2.



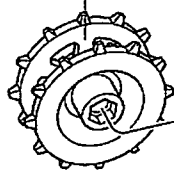
《ロードホイール》
Road wheel

★8個作ります。
★Make 8.

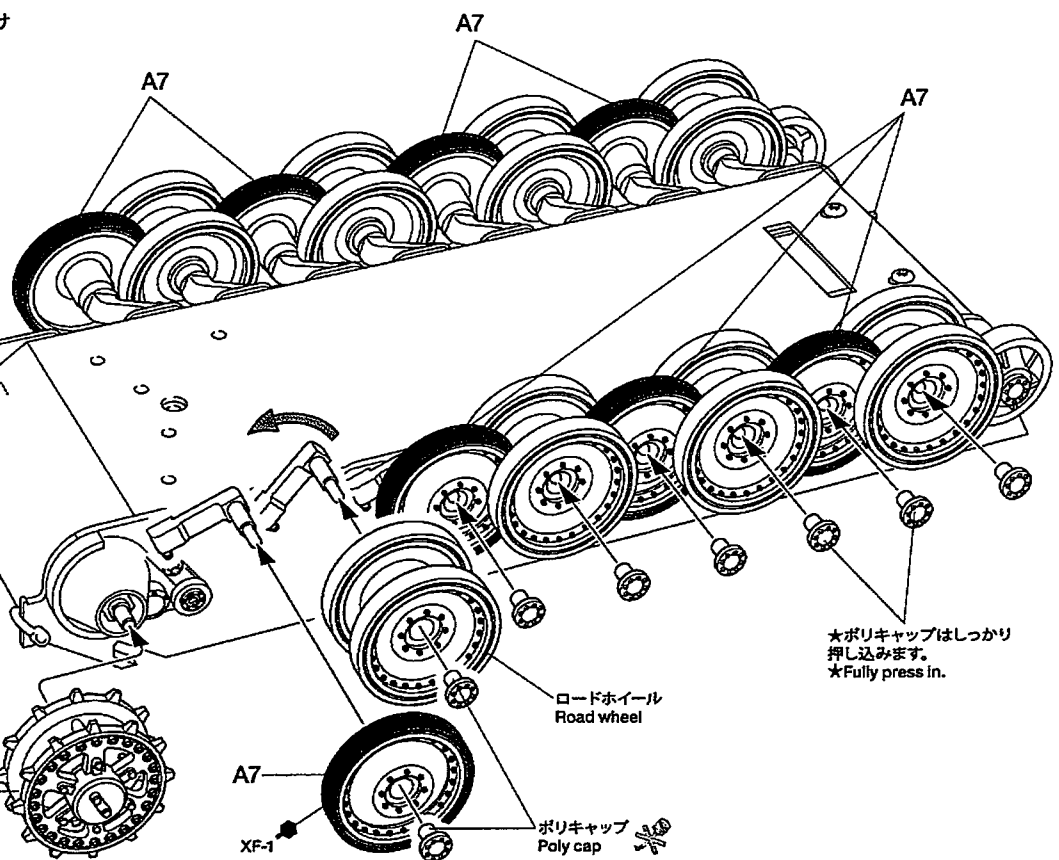


5 ロードホイールのとりつけ
Attaching road wheels

ドライブスプロケット
Drive sprocket



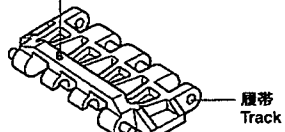
ドライブスプロケット
Drive sprocket



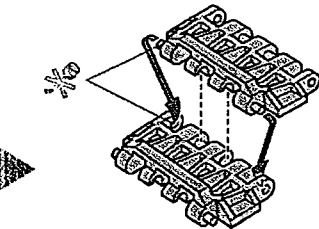
★ポリキャップはしっかり
押し込みます。
★Fully press in.

6 履帯の組み立て Track assembly

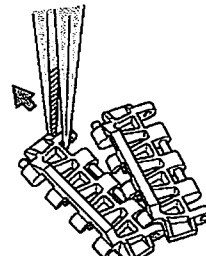
★切り取ります。
★Remove.



① 不要な部分を切り取ります。
Remove excess plastic.

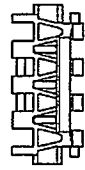


② 図のように60個のブロックを組み合わせて片側の履帯を組み立てます。
Connect track links as shown to assemble tracks. Use 60 links for each track.

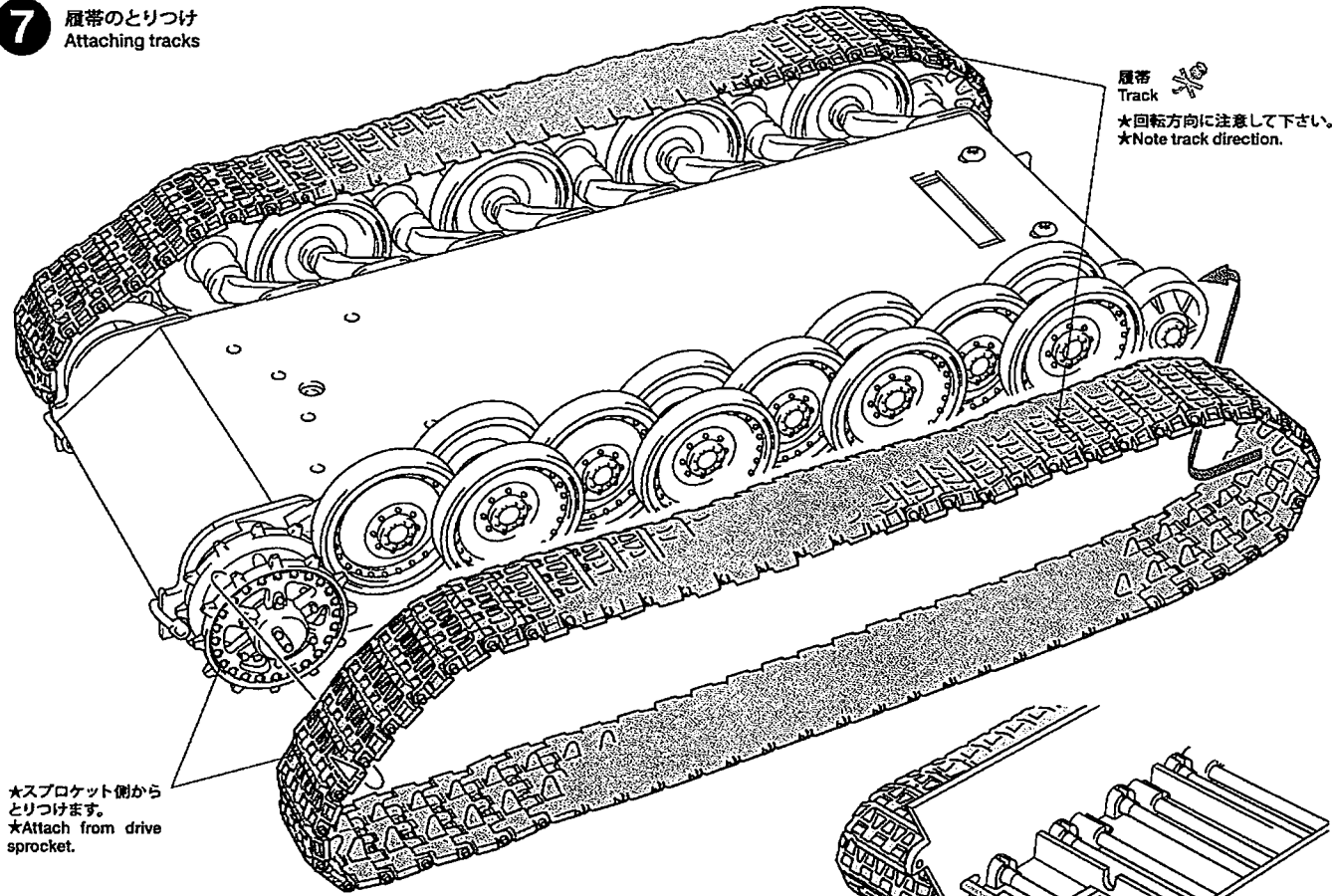


③ 固くて取り付けにくい場合はラジオペンチなどを使うとよいでしょう。
Use long nose pliers to aid with attachment if needed.

★履帯がこわれたり、切れたりしたら予備の履帯を使って補修できます。
★Use spare track links when tracks are damaged.

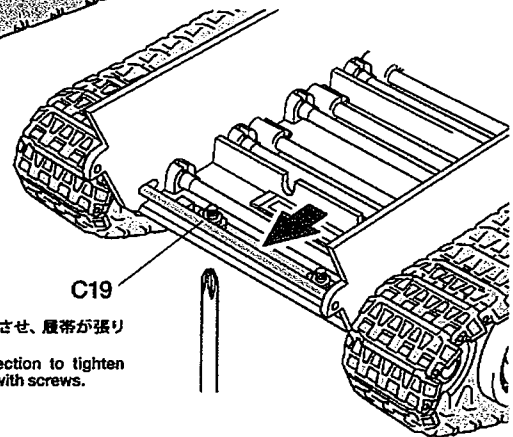


7 履帯のとりつけ Attaching tracks



★スプロケット側からとりつけます。
★Attach from drive sprocket.

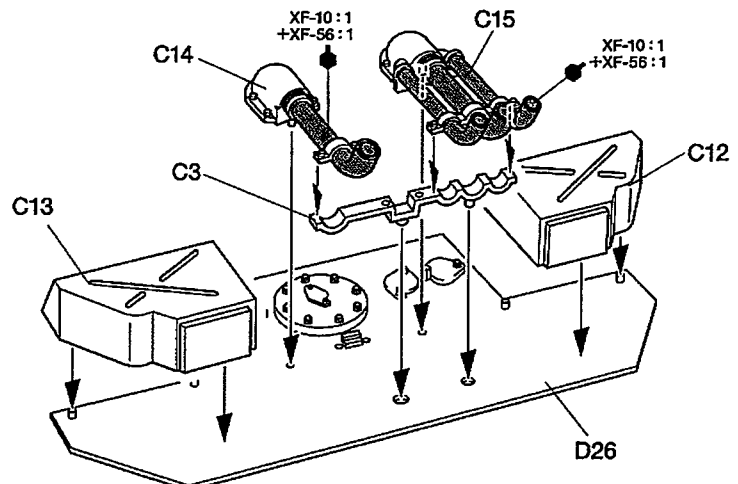
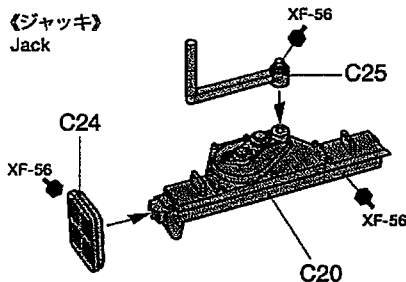
履帯 Track
★回転方向に注意して下さい。
★Note track direction.



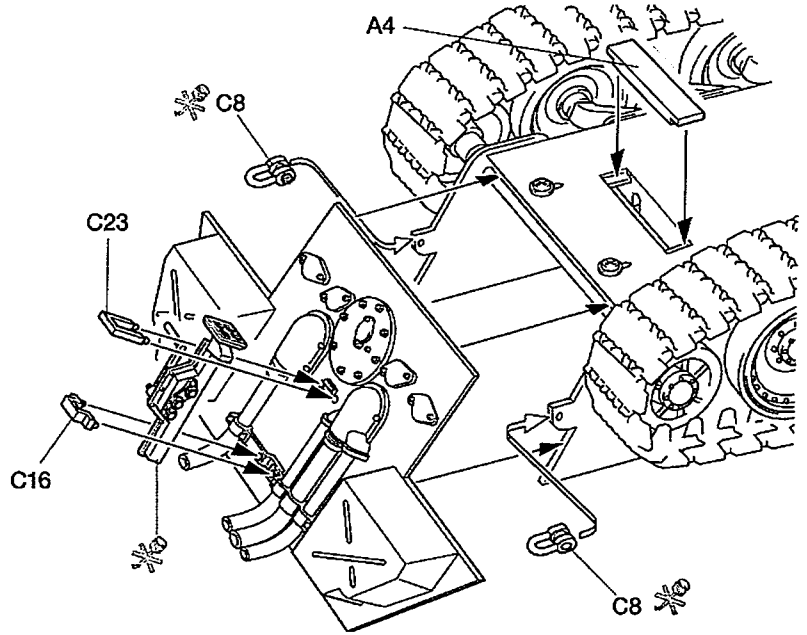
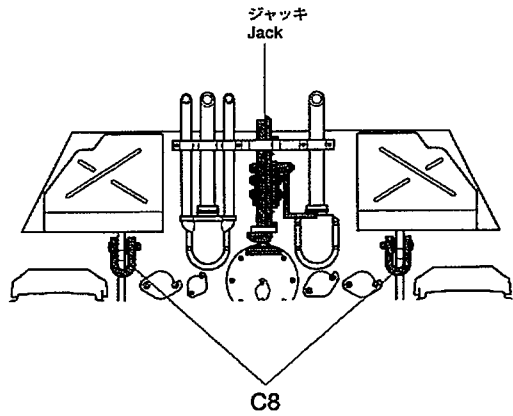
★C19を矢印の方向へ移動させ、履帯が張り进行调整して下さい。
★Slide C19 in shown direction to tighten track tension, then secure with screws.

8 リヤパネルの組み立て Attaching rear panel parts

《ジャッキ》
Jack

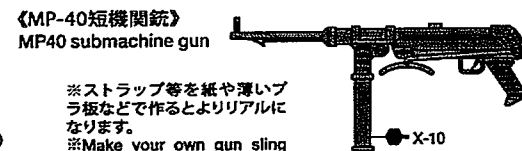
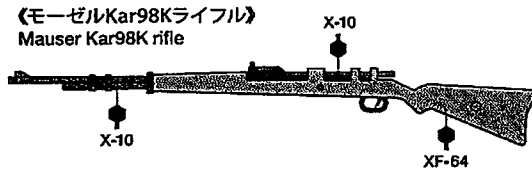
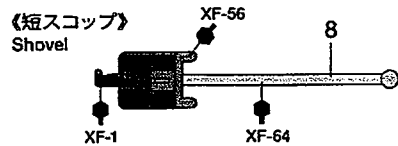
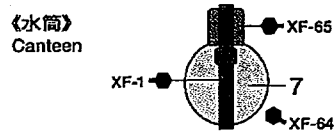
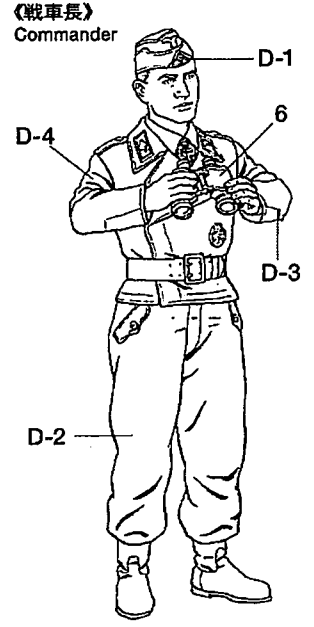
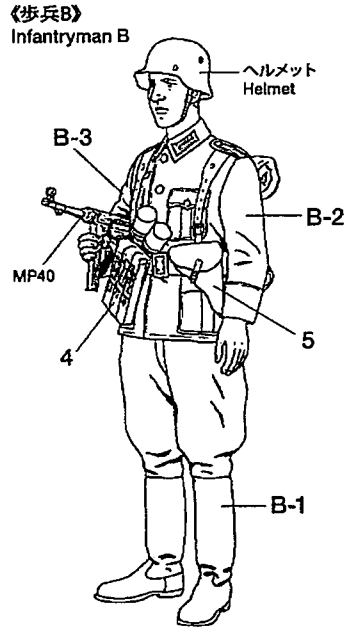
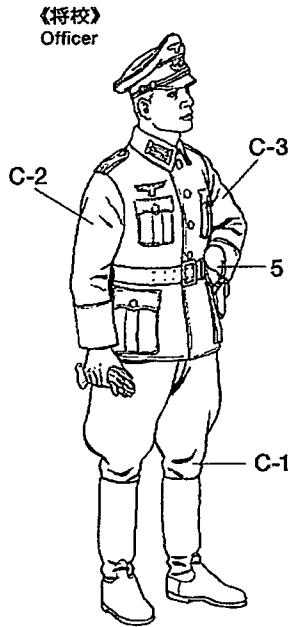
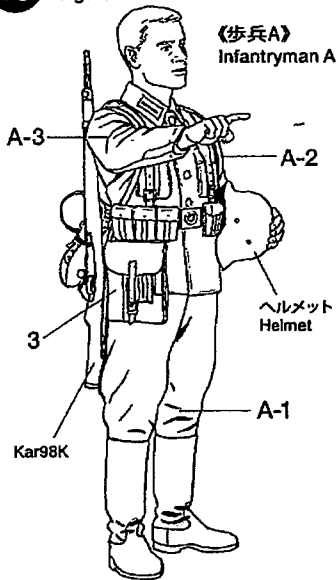


9 リヤパネルの取り付け
Attaching rear panel

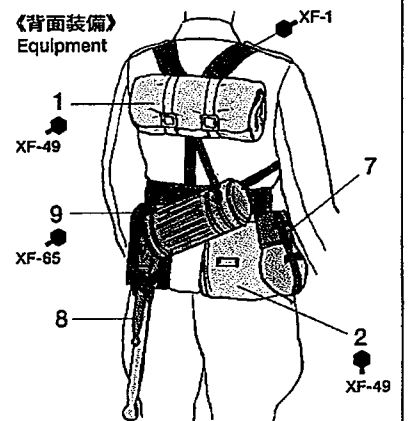


●組立順番 15 からは本文説明図と共に補足説明図を参考にしながら組み立てを行ってください。
●From Step 15 onwards, refer to both the original instructions and Supplementary Instructions.

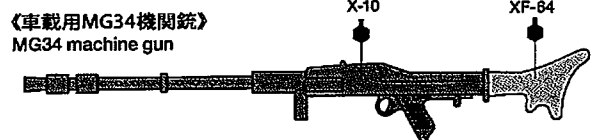
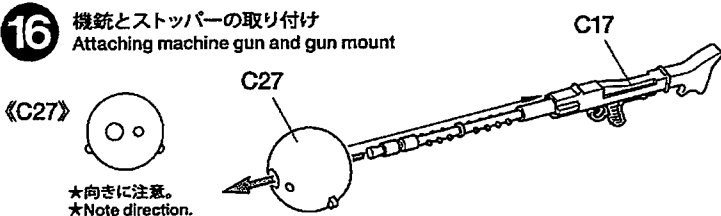
15 人形の組み立て
Figures



※ストラップ等を紙や薄いプラ板などで作るとよりリアルになります。
※Make your own gun sling from paper or thin plastic plate to add more realism.

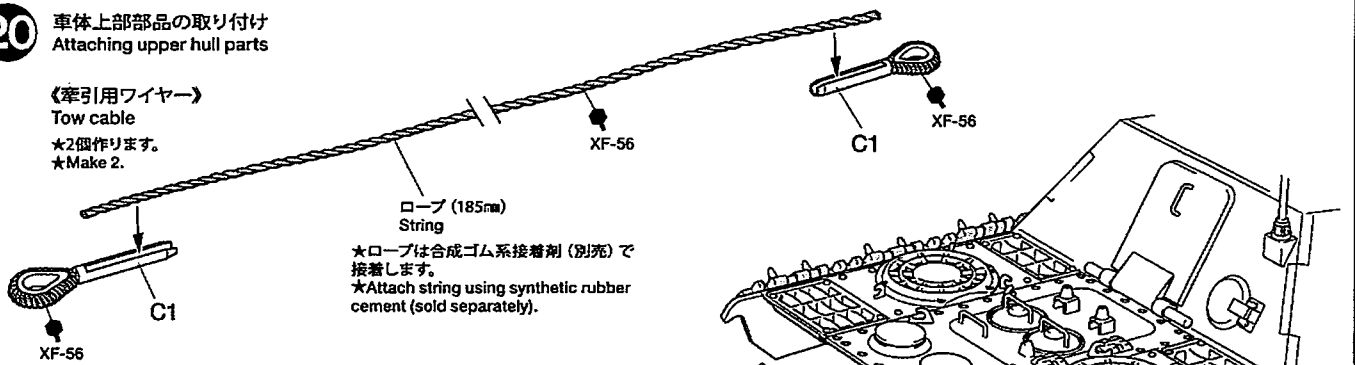


16 機銃とストッパーの取り付け
Attaching machine gun and gun mount



20 車体上部部品の取り付け
Attaching upper hull parts

《牽引用ワイヤー》
Tow cable
★2個作ります。
★Make 2.

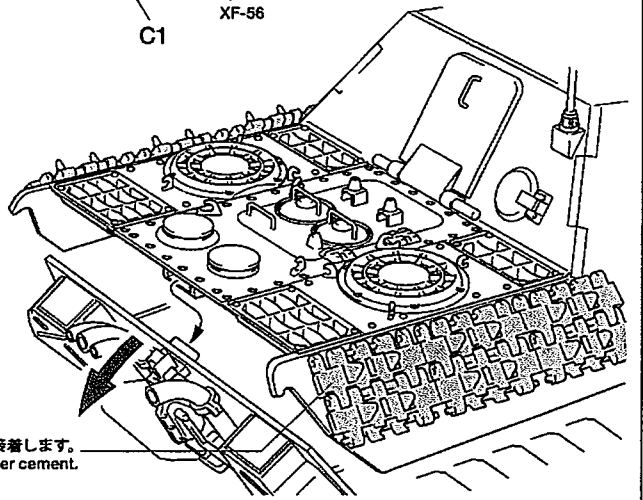


★ロープは合成ゴム系接着剤 (別売) で接着します。
★Attach string using synthetic rubber cement (sold separately).

21 車体の完成
Completion of tank

★車体上面をリヤパネルにはめ込みます。
★Fit into the tab on the rear panel.

★予備履帯は合成ゴム系接着剤 (別売) で接着します。
★Attach spare tracks using synthetic rubber cement (sold separately)



PARTS

車体上部.....X1 Upper hull
車体下部.....X1 Lower hull
人形部品.....X1 Figures
ポリキャップ.....X1 Poly cap
スライドマーク.....X1 Decal

履帯袋詰
TRACK BAG
19333124
履帯.....60個×2
Track link



金具袋詰
METAL BAG
19403139

ロープ (70cm)X1
String

3×95mmシャフト.....X1
Shaft

3×117.5mmシャフト.....X1
Shaft

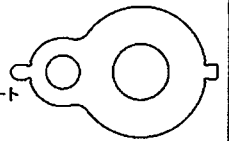
ビス袋詰
SCREW BAG

2.6×5mmトラスビス
Screw
.....X2

2×4mmタッピングビス
Tapping screw
.....X4

2.6mmナット
Nut
.....X2

ギヤプレート
Gear plate
.....X2



不要部品..... B1, B2, B4, C21, C22
Not used.

●スライドマークを貼る位置や車体の塗装に関しては、本文説明図11ページの四面図をご覧ください。
●Refer to the illustrations on page 11 in the original instructions for painting and applying decals.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはりかた》

- ①はりたいマークをハサミで切りぬきます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上におきます。
- ③台紙のはしを手で持ち、貼る位置にマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかい布でマークの内側の気泡をおし出ししながら、おしつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ①Cut off decal from sheet.
- ②Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーが貼られたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。



①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振込ください。

②《代金引換のご利用法》

パーツ代金に加えて代引き手数料 (315円) をご負担いただければ、電話またはホームページより代金引換によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

《住所》 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7
株式会社タミヤ カスタマーサービス

《お問い合わせ電話番号》 静岡 054-283-0003
東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)
営業時間/平日 ▶8:00~20:00 土、日、祝日▶8:00~17:00

《カスタマーサービスアドレス》
http://tamiya.com/japan/customer/cs_top.htm



ドイツ陸軍 駆逐戦車 ロンメル ITEM 30607

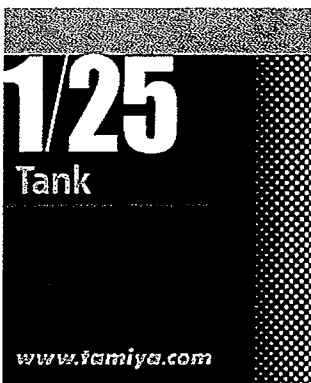
★価格は2010年11月現在のものです。予告なく変更となる場合があります。

部品名	税込価格	本体価格	部品コード
車体上部.....	924円 (880円)		19333121
車体下部.....	672円 (640円)		19333122
Aパーツ.....	630円 (600円)		10003259
Bパーツ.....	546円 (520円)		19003075
Cパーツ.....	777円 (740円)		19003948
Dパーツ.....	672円 (640円)		19003949
Eパーツ.....	651円 (620円)		19003950
人形袋詰.....	672円 (640円)		19333123
履帯袋詰(1台分).....	945円 (900円)		19333124
3mmポリキャップ(20個).....	315円 (300円)		10445751
金具袋詰.....	483円 (460円)		19403139
マーク.....	651円 (620円)		19493141
説明図(JP).....	630円 (600円)		11054026
補足説明図.....	378円 (360円)		11053513

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

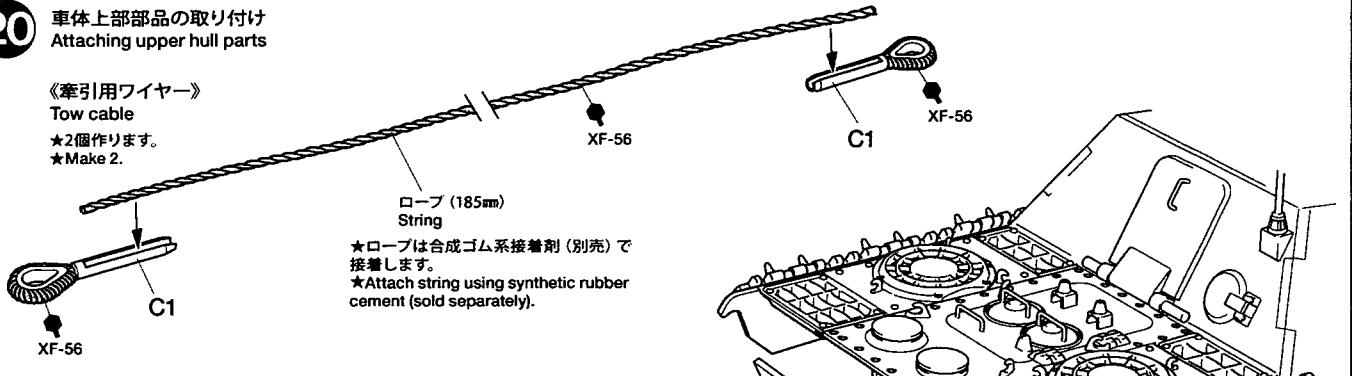
Parts code	ITEM 30607
19333121.....	Upper Hull
19333122.....	Lower Hull
10003259.....	A Parts
19003075.....	B Parts
19003948.....	C Parts
19003949.....	D Parts
19003950.....	E Parts
19333123.....	Figure Parts
19333124.....	Track Links
10445751.....	3mm Poly Cap (20 pcs.)
19403139.....	Metal Parts Bag
19493141.....	Decal
11054026.....	Instructions (EN)
11053513.....	Supplementary Instructions



www.tamiya.com

20 車体上部部品の取り付け
Attaching upper hull parts

《牽引用ワイヤー》
Tow cable
★2個作ります。
★Make 2.

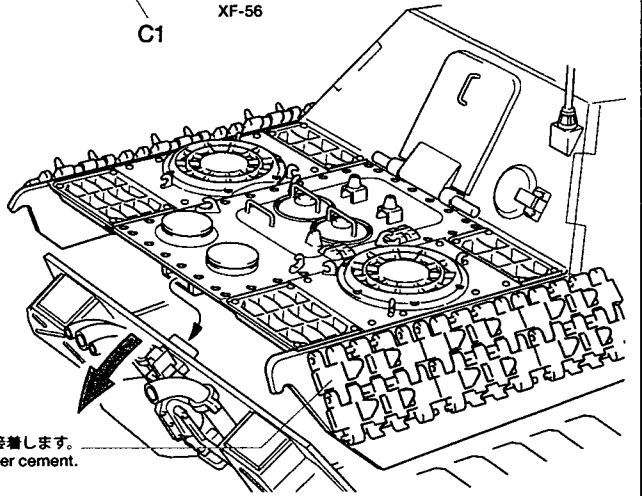


★ロープは合成ゴム系接着剤 (別売) で接着します。
★Attach string using synthetic rubber cement (sold separately).

21 車体の完成
Completion of tank

★車体上面をリヤパネルにはめ込みます。
★Fit into the tab on the rear panel.

★予備履帯は合成ゴム系接着剤 (別売) で接着します。
★Attach spare tracks using synthetic rubber cement (sold separately).

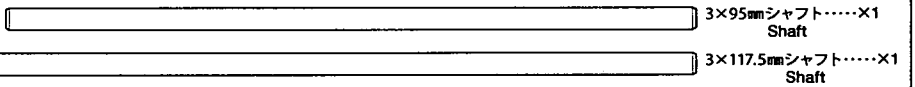


PARTS

車体上部.....X1 車体下部.....X1 人形部品.....X1 スライドマーク.....X1
Upper hull Lower hull Figures Decal

《金具袋詰》
Metal Parts
Bag
19402473

ロープ.....X1
String
ホリキャップ.....X1
Poly cap



《予備履帯袋詰》
Spare track

履帯.....X15
Track



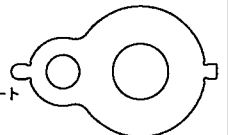
《ビス袋詰》
Screw Bag

2.6x5mmトラスビス
Screw
.....X2

2x4mmタッピングビス
Tapping screw
.....X4

2.6mmナット
Nut
.....X2

ギヤープレート
Gear plate
.....X2



●スライドマークを貼る位置や車体の塗装に関しては、本文説明図11ページの四面図をご覧ください。
●Refer to the illustrations on page 11 in the original instructions for painting and applying decals.

不要部品..... B1, B2, B4, C21, C22
Not used.

APPLYING DECALS

《スライドマークの貼りかた》

- ①はりたいマークをハサミで切りぬきます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上におきます。
- ③台紙のはしを手で持ち、貼る位置にマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかい布でマークの内側の気泡をおし出ししながら、おしつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ①Cut off decal from sheet.
- ②Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーが貼られたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。



①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振込ください。

②《代金引換のご利用法》

パーツ代金に加えて代引き手数料 (315円) をご負担いただければ、電話またはホームページより代金引換によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

《住所》 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7
株式会社タミヤ カスタマーサービス

《お問い合わせ電話番号》 静岡 054-283-0003
東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)

《カスタマーサービスアドレス》
http://tamiya.com/japan/customer/cs_top.htm



ドイツ陸軍 駆逐戦車 ロンメル ITEM 30607

★価格は2013年6月現在のものです。予告なく変更となる場合があります。

部品名	税込価格	本体価格	部品コード
車体上部	924円	880円	19333121
車体下部	672円	640円	19333122
Aパーツ	630円	600円	10003259
Bパーツ	546円	520円	19003075
Cパーツ	777円	740円	19003948
Dパーツ	672円	640円	19003949
Eパーツ	651円	620円	19003950
人形袋詰	672円	640円	19333123
履帯完成(1台分)	3,150円	3,000円	19403205
3mmポリキャップ(20個)	315円	300円	10445751
金具袋詰(予備履帯含む)	693円	660円	19402473
マーク	651円	620円	19493141
説明図(JP)	630円	600円	11054025
補足説明図	378円	360円	11053513

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 30607
19333121	Upper Hull
19333122	Lower Hull
10003259	A Parts
19003075	B Parts
19003948	C Parts
19003949	D Parts
19003950	E Parts
19333123	Figure Parts
19403205	Tracks
10445751	3mm Poly Cap (20 pcs.)
19402473	Metal Parts Bag (includes Spare Track Links)
19493141	Decal
11064026	Instructions (EN)
11053513	Supplementary Instructions

1/25
Tank
www.tamiya.com



履帯についてのご注意

Tracks

●このたびは、1/25戦車シリーズをお買い求めいただきありがとうございます。本キットの履帯(キャタピラ)は連結組み立て済み(輪状または帯状)となっています。予備履帯については下記を参考に組み立ててください。

●Thank you for purchasing this Tamiya product. Please note that the tracks in this kit are pre-assembled. Refer to the table below for information about spare track links.

■ITEM30607 ドイツ陸軍 駆逐戦車 ロンメル

履帯は輪状で連結済み。

予備履帯は2枚に連結し、6組作り車体に装備します。3枚余ります。

■German Army Tank Destroyer Jagdpanther (Item 30607)

Tracks are pre-assembled and connected. Make 6 sets of 2 spare track links and attach to hull. Use remaining 3 track links as spares.

■ITEM89569 ソビエト中戦車 T-34 TYPE85

ITEM25104 ソビエト襲撃砲戦車 SU-100 ジューコフ

履帯は帯状で連結済み。予備履帯はアクセサリーでお使いください。

■Russian Medium Tank T-34 Type 85 (Item 89569)

■Russian Tank Destroyer SU-100 (Item 25104)

Pre-assembled tracks require connection. Use spare track links as you like.

■ITEM30614 イギリス戦車 センチュリオン Mk.III

履帯は帯状で連結済み。

■British Army Medium Tank Centurion Mk.III (Item 30614)

Pre-assembled tracks require connection.

■ITEM30611 ドイツ陸軍重戦車タイガーI型

履帯は帯状で連結済み。

予備履帯は9枚連結し車体前部に装備します。3枚余ります。

■German Heavy Tank Tiger I (Item 30611)

Pre-assembled tracks require connection. Make 1 set of 9 spare track links and attach to hull front. Use remaining 3 track links as spares.



●万一不良、不足部品などありました場合は、当社カスタマーサービスまでご連絡ください。

●In case of defects, missing parts, or other customer service concerns, please contact your local official Tamiya dealer.

《お問い合わせ番号》

静岡 054-283-0003

東京 03-3899-3765

(静岡に自動転送)

